

第9期北海道総合開発計画 モニタリング指標

国土交通省 北海道局
令和7年6月

目標	施策	モニタリング項目	変化	数値	頁
目標Ⅰ我が国の豊かな暮らしを支える北海道 食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道	1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展	国産供給熱量に占める北海道の割合	→	24%(R1)→24%(R4)	8
		農業産出額	↗	12,560億円(R1)→13,480億円(R5)	8
		食料品製造業の付加価値率	↘	28%(R1)→27%(R4)	8
		「食料品及び動物」輸出額	↗	681億円(R1)→737億円(R6)	8
		林業産出額	↘	467億円(R1)→434億円(R5)	9
		道産木材の供給量	↘	446万m³(R1)→427万m³(R6)	9
		海面漁業・養殖業生産量	→	95万8千t(R1)→95万7千t(R4)	9
		海面漁業・養殖業産出額	↗	2,307億円(R1)→2,836億円(R5)	9
		化学農薬出荷量・化学肥料出荷量	→	16,039t(R1)→16,098t(R4)(化学農薬出荷量)	10
			↘	24万3千t(R1)→22万7千t(R4)(化学肥料出荷量)	10
	2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり	6次産業の1事業体当たりの年間販売金額	↗	5,023万円(R1)→6,069万円(R4)(農業生産関連)	10
			→	1億6,712万円(R1)→1億6,544万円(R4)(漁業生産関連)	10
		月別延べ宿泊者数(日本人・外国人)	↗	327万人泊(R1)(ピーク値:8月)→386万人泊(R6)(ピーク値:8月)(日本人)	11
			↗	124万人泊(R1)(ピーク値:2月)→144万人泊(R6)(ピーク値:12月)(外国人)	11
		月別の客室稼働率(ピーク／オフピーク率)	↗	1.42(R1)→1.65(R6)	11
		①外国人来道者数、②訪日外国人旅行者数の北海道シェア	↘	301万人(R1)→195万人(R5)(外国人来道者数)	12
		来道旅行者の観光消費額(道内客・道外客・外国人客)	↗	15,159億円(R1)→15,923億円(R6)(道内+道外+外国人)	12
		来道旅行者の1人当たり消費額(道内客・道外客・外国人客)	↗	138,558円(R1)→172,072円(R6)(外国人)	12
		圏域別観光入込客数・国内宿泊客延数(入込総数・日本人客・外国人客)	→	6,495万人(R1)→6,387万人(R5)(地方部観光入込客数)	13
			↘	1,464万人泊(R1)→1,419万人泊(R5)(地方部国内宿泊客延数)	13
			↘	206万人泊(R1)→191万人泊(R5)(地方部訪日外国人宿泊客延数)	14

目標	施策	モニタリング項目	変化	数値	頁
目標Ⅰ 我が国の豊かな暮らしを支える北海道 （食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道）	2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり	平均泊数(全宿泊者・外国人客)	↗	1.47人泊(R1)→1.68人泊(R5)(全宿泊者)(道央)	14
			↗	1.22人泊(R1)→1.26人泊(R5)(全宿泊者)(道南)	14
			↗	1.32人泊(R1)→1.36人泊(R5)(全宿泊者)(道北)	14
			↗	1.11人泊(R1)→1.16人泊(R5)(全宿泊者)(オホーツク)	14
			↗	1.22人泊(R1)→1.28人泊(R5)(全宿泊者)(十勝)	14
			↗	1.14人泊(R1)→1.19人泊(R5)(全宿泊者)(釧路・根室)	14
		道内観光の満足度(道内客・道外客・外国人客)	→	83.8%(R1)→82.5%(R6)(道外客・外国人客かつ新千歳・函館・旭川・帯広・釧路・女満別の空港別満足度の加重平均)	15
		北海道への再訪意欲(道外客、外国人客)	→	95.0%(R1)→95.5%(R6)(道外客・外国人客かつ新千歳・函館・旭川・帯広・釧路・女満別の空港別再訪意欲の加重平均)	15
		道内のDMO登録件数(持続可能な観光地域づくりに取り組む地域)	↗	12件(R1)→24件(R6)	15
		国際認証・表彰の地域数 ※グリーン・デスティネーションズ(GD)による表彰及びベスト・ツーリズム・ビレッジ(BTV)による認定	↗	1件(R2)→2件(R5)(グリーン・デスティネーションズによる表彰)	15
			↗	0件(R2)→1件(R5)(ベスト・ツーリズム・ビレッジによる認定)	15
	3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現	①温室効果ガス排出量、②1人当たり温室効果ガス排出量	↘	6,369万t-CO2(R1)→5,798万t-CO2(R4)(温室効果ガス排出量)	16
			↘	12.2t-CO2(R1)→11.3t-CO2(R4)(一人当たり温室効果ガス排出量)	16
		①森林蓄積、②森林の炭素貯蔵量	↗	8.1億m³(R1)→8.6億m³(R5)(森林蓄積(針葉樹+広葉樹))	16
			↗	3.3億t-CO2(R1)→3.4億t-CO2(R2)(炭素貯蔵量)	16
		新エネルギーの発電電力量・熱利用量	↗	31,630TJ(R1)→42,865TJ(R4)(電力)	16
			↗	14,578TJ(R1)→15,426TJ(R4)(熱利用)	16
		地域マイクログリッド構築に取り組む市町村数	—	3市町村(R4)	16

注) 基準年をコロナ前のR1年(度)又はデータ利用可能な前後の年(度)とし、最新データとの変化を比較。3%以上上昇(↗)、3%以上減少(↘)、横ばい(→)と矢印で傾向を表記。

目標	施策	モニタリング項目	変化	数値	頁
目標Ⅰ 我が国の豊かな暮らしを支える北海道 食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道	3. 地球温暖化対策を先導する省エネルギー政策の推進 北海道の実現	洋上風力の発電電力量	↗	1百万kwh(R1)→3百万kwh(R4)	17
		道内総生産、1人あたり道内総生産	→	2,079百億円(R1)→2,089百億円(R4)(道内総生産)	18
	4. 地域の強みを活かした成長産業の形成		→	392万円/人(R1)→403万円/人(R4)(一人当たり道内生産量)	18
		有効求人倍率	↘	1.22倍(R1)→1.04倍(R5)	18
		製造品出荷額	↗	605百億円(R1)→664百億円(R4)	18
		苫小牧東部地域における製造品出荷額(苫小牧市・厚真町・安平町)	↗	136百億円(R1)→147百億円(R4)	18
		半導体関連産業の出荷額	↗	740億円(R1)→1,132億円(R4)	19
		北海道内のデータセンター立地数	↗	38箇所(R1)→43箇所(R5)	19
	5. 自然共生社会・循環型社会の形成	自然公園利用者数	↘	3,446万人(R1)→2,241万人(R4)	20
		産業廃棄物:①排出量、②最終処分量、③再生利用率	↘	4,665万トン(R1)→3,993万トン(R2)(排出量)	20
			↗	53.7%(R1)→61.5%(R2)(再生利用率)	20
			↘	92万トン(R1)→75万トン(R2)(最終処分量)	20
		自然共生サイト登録数・登録面積	↗	10箇所(R5)→16箇所(R6)(自然共生サイト登録数)	20
			↗	27,100ha(R5)→28,300ha(R6)(登録面積)	20
	6. 北方領土隣接地域の振興	北方領土隣接地域の1人当たり主要生産額	↗	400万円/人(R1)→450万円/人(R4)	21
		国境周辺地域への観光入込客数	↘	211万人(R1)→186万人(R5)	21
		国境周辺地域の漁業生産量	↘	22万トン(R1)→17万トン(R5)	21
		国境周辺地域の再生可能エネルギーの導入実績	↗	217件(R1)→408件(R6)	21

目標	施策	モニタリング項目	変化	数値	頁
目標Ⅰ 我が国の豊かな暮らしを支える北海道、観光立国、ゼロカーボン北海道	7. アイヌ文化の振興等	アイヌの人々やアイヌ文化に接したことがある割合	↗	25%(H27)→28%(R6)	22
		民族共生象徴空間(ウポポイ)への年間来場者数	↗	22.3万人(R2)→31.6万人(R6)	22

目標	施策	モニタリング項目	変化	数値	頁
目標Ⅱ 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 （生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり）	2. 1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展 多様な豊かな地域社会の形成	北海道の人口	↘	525.9万人(R1)→504.3万人(R6)(道内)	23
			↘	56.8万人(R1)→49.7万人(R6)(15歳未満)	23
			↘	302.5万人(R1)→286.8万人(R6)(15～64歳)	23
			→	166.7万人(R1)→167.7万人(R6)(65歳以上)	23
		在留外国人数	↗	42,485人(R1)→60,273人(R6)(道内)	23
		人口増減数(日本人、日本人+外国人、自然・社会増減)	↘	▲34,379人(R1)→▲50,601人(R5)(日本人、自然増減)	23
			↗	▲7,907人(R1)→▲6,002人(R5)(日本人、社会増減)	23
			↘	▲34,320人(R1)→▲50,538人(R5)(日本人+外国人、自然増減)	23
			↗	▲2,331人(R1)→4,608人(R5)(日本人+外国人、社会増減)	23
		転入数・転出数・転入超過数	↘	47,737人(R1)→46,270人(R6)(転入数、北海道⇄他都府県)	24
			↘	55,467人(R1)→52,598人(R6)(転出数、北海道⇄他都府県)	24
			↗	▲7,730人(R1)→▲6,328人(R6)(転入超過数、北海道⇄他都府県)	24
		合計特殊出生率	↘	1.24(R1)→1.06(R5)(北海道)	27
		「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と考える人の割合	→	75%(R1)→73%(R5)	27
		道内新規大学等卒業者の就職状況(卒業者数、求職者数、就職者数、就職率、道内就職割合)	↘	32,793人(R1)→31,171人(R6)(卒業者数)	27
			↘	26,465人(R1)→25,179人(R6)(求職者数)	27
			↘	25,358人(R1)→23,753人(R6)(就職者数)	27
			→	96%(R1)→94%(R6)(就職率)	27
			↘	68.6%(R1)→66.4%(R6)(道内就職割合)	27

目標	施策	モニタリング項目	変化	数値	頁
目標Ⅱ 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり～	2. 多様なデジタルの活用による生産空間の維持・発展 多様な豊かな地域社会の形成	1. 北海道体験移住「ちょっと暮らし」実施市町村数・参加者数・滞在日数	↘	114市町村(R1)→106市町村(R5)(実施市町村数)	28
			↗	4,666人(R1)→4,951人(R5)(参加者数)	28
			→	94,924日(R1)→93,911日(R5)(滞在日数)	28
		5G契約数	↗	0.1万件(R2)→334.5万件(R6)	28
		「立地適正化計画」策定自治体数	↗	18自治体(R1)→42自治体(R6)	28
		道内テレワーク導入企業割合	↗	16%(R1)→41%(R5)	29
	3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成	J-Startup HOKKAIDO認定スタートアップ企業の選定実績	↗	22社(R2)→55社(R6)	29
		高規格道路開通延長	→	1,180km(R1)→1,196km(R5)	30
		高規格道路整備によるICアクセス30分カバー率(居住面積比)	↗	61.4%(H26)→71.1%(R5)	30
		札幌へのアクセス時間が短縮された道内の範囲(1km ² メッシュの数)	↗	0メッシュ(R4)→8,992メッシュ(R6)	30
		国道関連施設を活用した物流の共同・中継輸送の利用件数(企業数)	↗	1企業(R3)→13企業(R5)	30
		北海道における総生産額(一次産業)	↗	160百億円(R1)→172百億円(R4)	31
		札幌市における国際会議開催件数	↘	102件(R1)→43件(R5)	31

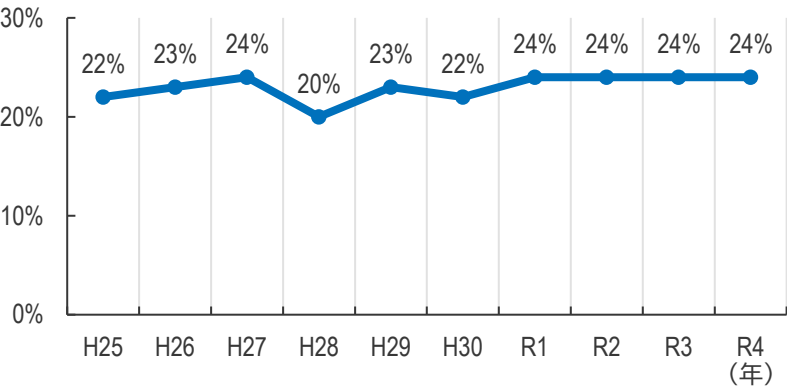
注) 基準年をコロナ前のR1年(度)又はデータ利用可能な前後の年(度)とし、最新データとの変化を比較。3%以上上昇(↗)、3%以上減少(↘)、横ばい(→)と矢印で傾向を表記。

モニタリング指標一覧⑦

目標	施策	モニタリング項目	変化	数値	頁
目標Ⅱ 北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり	4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり	一級水系及び二級水系において、連携して流域治水プロジェクトを策定している水系数	↗	13水系(R2)→243水系(R6)	32
		一級、二級河川における戦後最大洪水等に対応した河川の整備率	↗	67%(R1)→73%(R4)(一級河川)	32
			↗	50%(R1)→63%(R4)(二級河川)	32
		最大クラスの津波に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識の向上につながる訓練を実施した市町村の割合	↘	78%(R1)→65%(R5)	32
		最大クラスの洪水・内水に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識の向上につながる訓練を実施した市町村の割合	↗	55%(R1)→88%(R5)	32
		冬期災害に備えた防災訓練の実施市町村数	↗	16市町村(R1)→39市町村(R5)	33
		災害時における主要な管渠、下水処理場及びポンプ場の機能確保率	↗	45%(R1)→55%(R4)(管渠)	33
			↗	26%(R1)→40%(R4)(下水処理場)	33
			↗	13%(R1)→37%(R4)(ポンプ場)	33
		緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強進捗率	→	73%(R1)→74%(R3)	33
		直轄土木工事におけるICT活用工事の実施率	↗	57%(R1)→83%(R5)	33
		リスク分散による企業立地件数	↗	27件(R1)→28件(R5)	34

■国産供給熱量に占める北海道の割合

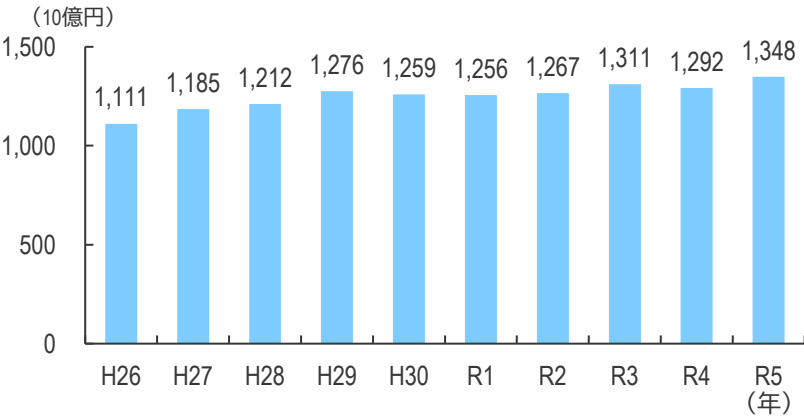
➢ 近年は約4分の1で推移。



出典：農林水産省「食料需給表」、「都道府県別自給率」、
総務省「都道府県別人口（10月1日現在）」から北海道局作成 ※R4年は概算値。

■農業産出額

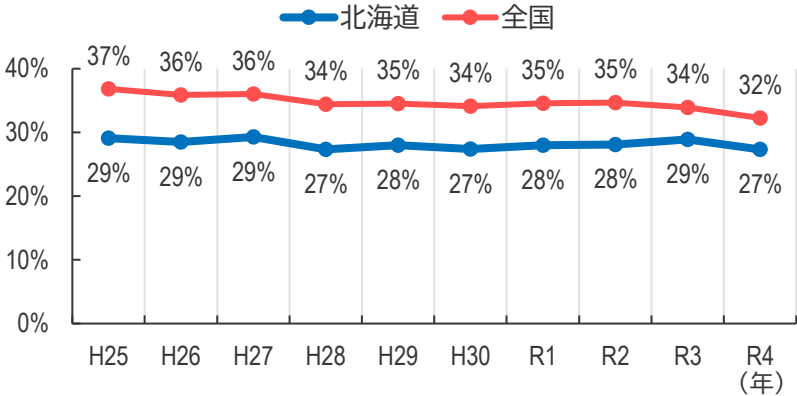
➢ 近年は増加傾向で推移。



出典：農林水産省「生産農業所得統計」から北海道局作成

■食料品製造業の付加価値率

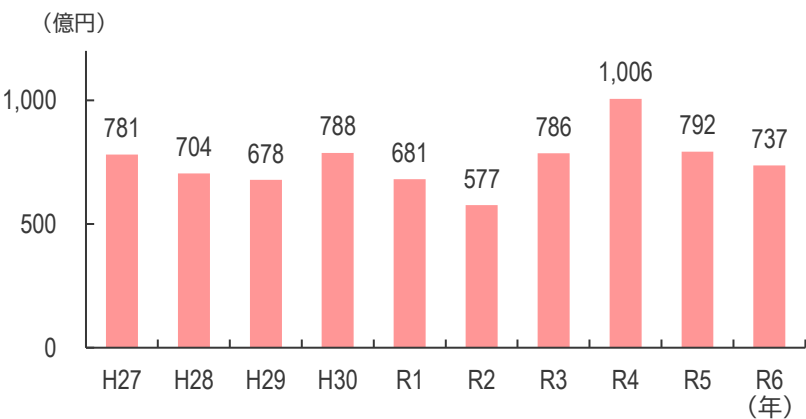
➢ 全国・北海道ともに低下傾向で推移。
➢ 北海道は全国より約5ポイント低い。



出典：経済産業省「工業統計調査」、「経済構造実態調査（製造事業所調査）」、
総務省統計局「経済センサス-活動調査」から北海道局作成
※付加価値率＝粗付加価値額÷製造品出荷額

■「食料品及び動物」輸出額

➢ 近年は一進一退で推移。R5年は中国の日本産水産物輸入停止の影響。

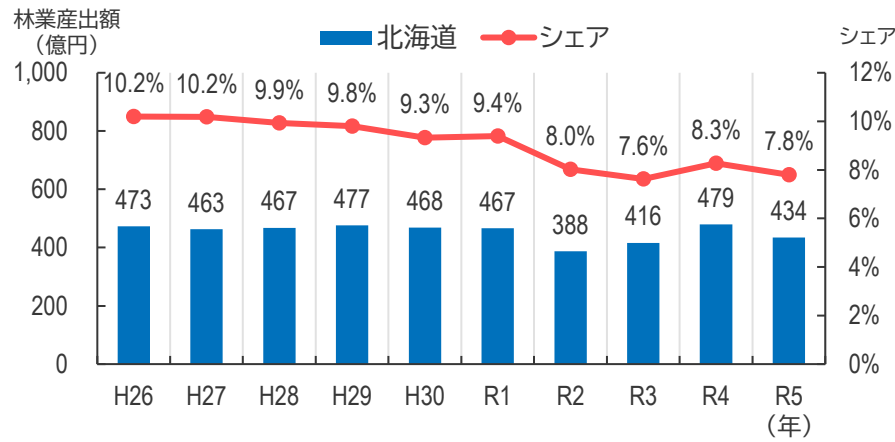


出典：函館税関「北海道貿易概況」から北海道局作成

※R6年は速報値。

■林業産出額

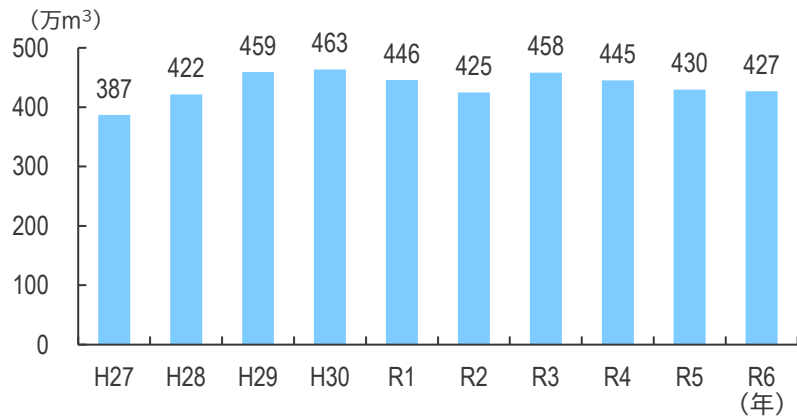
➢ 近年は横ばいで推移。全国に占めるシェアは低下傾向。



出典：農林水産省「林業産出額」から北海道局作成

■道産木材の供給量

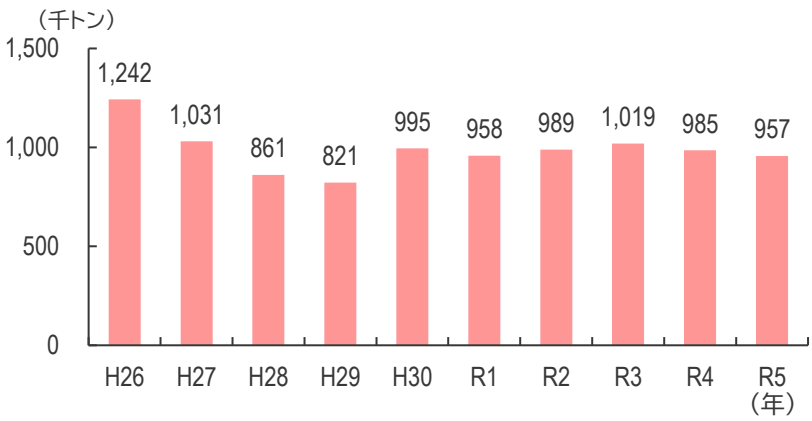
➢ 近年は400万m³超で推移。



出典：北海道「北海道木材需給実績」から北海道局作成

■海面漁業・養殖業生産量

➢ H29年まで減少傾向。H30年以降、100万トン前後で推移。

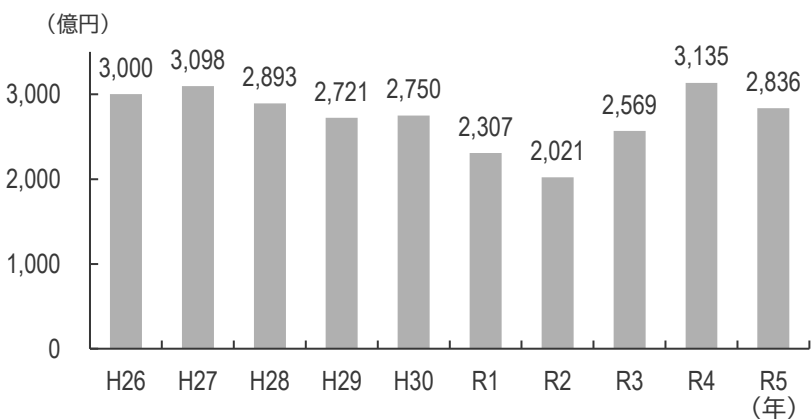


出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査」から北海道局作成

※捕鯨漁(海面漁業)、種苗(海面養殖業)を除く。

■海面漁業・養殖業産出額

➢ 近年は3,000億円前後で推移。

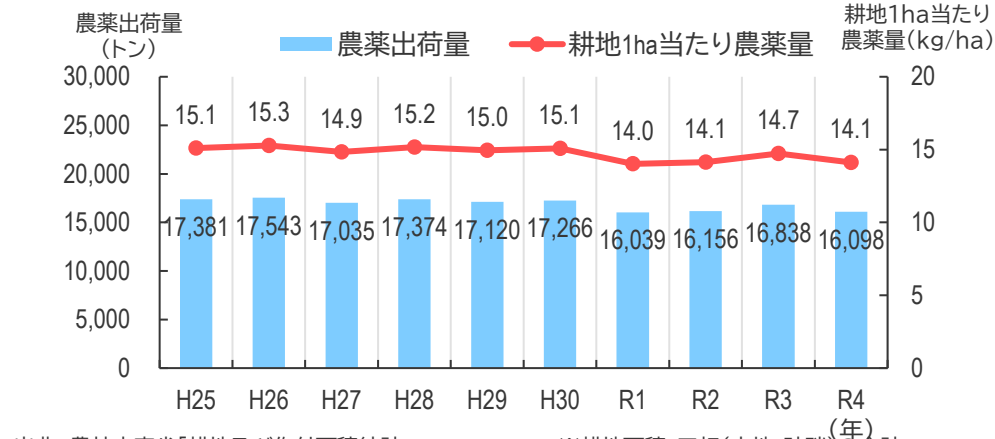


出典：農林水産省「漁業産出額」から北海道局作成

※捕鯨漁(海面漁業)、種苗(海面養殖業)を除く。

■化学農薬出荷量

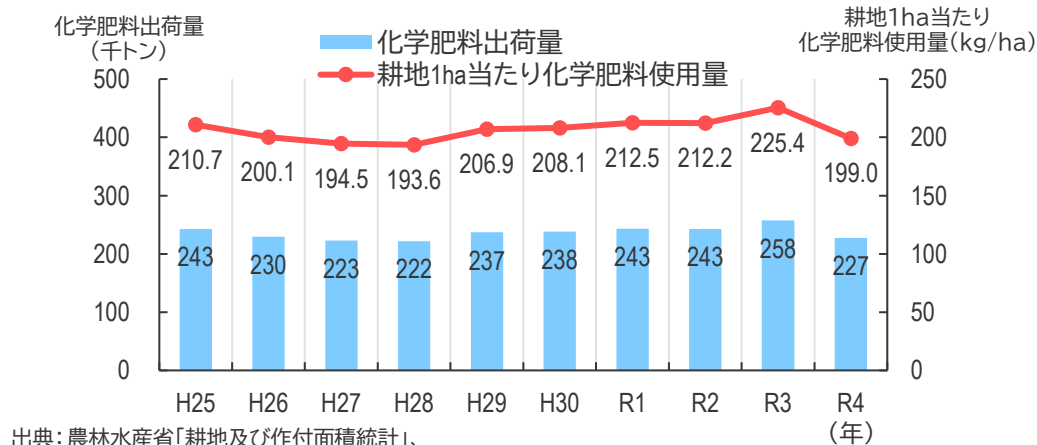
➢ 耕地面積1ha当たりの農薬出荷量はR元年以降やや低下。



出典：農林水産省「耕地及び作付面積統計」、日本植物防疫協会「農薬要覧」から北海道局作成
※耕地面積：田畑(本地・畦畔)の合計(畑には樹園地・牧草地を含む。)

■化学肥料出荷量

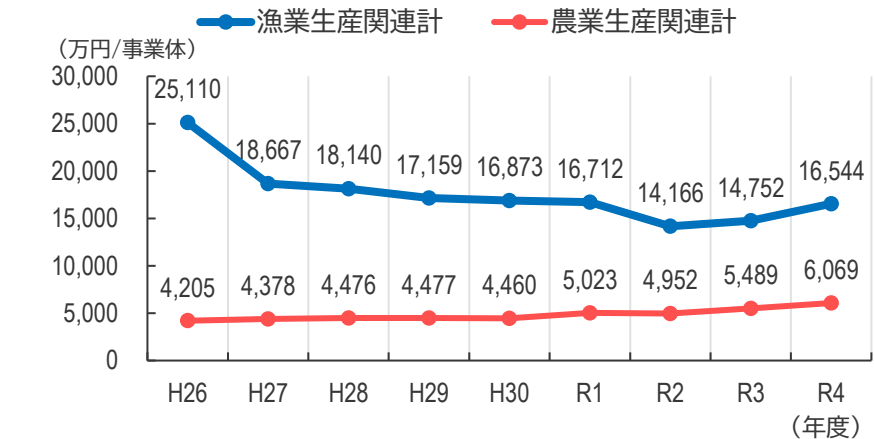
➢ 耕地面積1ha当たりの化学肥料出荷量は200kg/ha前後で推移。



出典：農林水産省「耕地及び作付面積統計」、(一社)日本肥料アンモニア協会「単肥及び複合肥料 都道府県別出荷実績」から北海道局作成
※肥料：各年7月～翌年6月のデータ
※耕地面積：田畑(本地・畦畔)の合計(畑には樹園地・牧草地を含む。)

■6次産業の1事業体当たりの年間販売金額

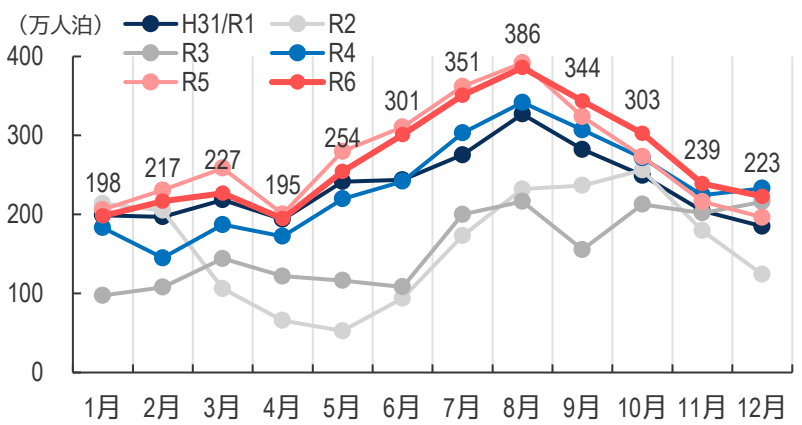
➢ 農業生産関連では近年やや低位で推移。漁業生産関連は増加傾向。



出典：農林水産省「6次産業化総合調査報告」から北海道局作成

■月別延べ宿泊者数(日本人)

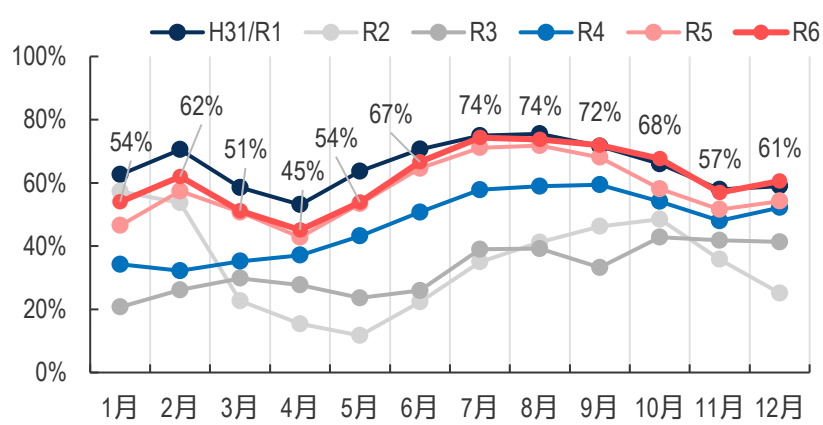
➢ 日本人の宿泊は8月が最も多く、4月が最も少なくなる傾向がある。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成 ※数字はR6年。

■月別の客室稼働率

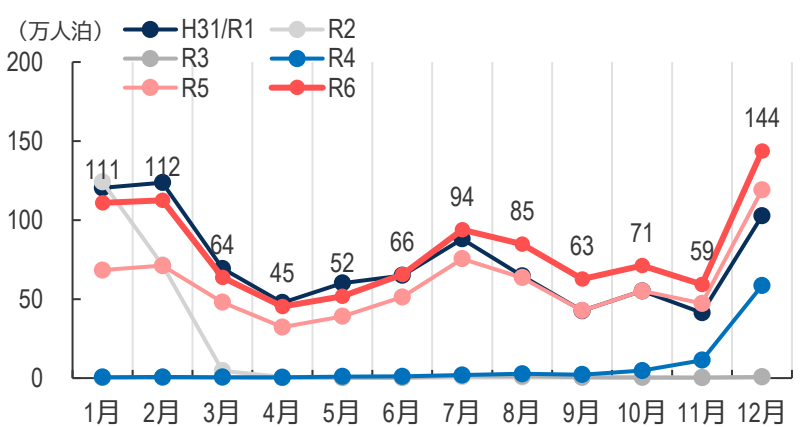
➢ 客室稼働率はコロナ禍前水準に戻りつつある。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成 ※数字はR6年。

■月別延べ宿泊者数(外国人)

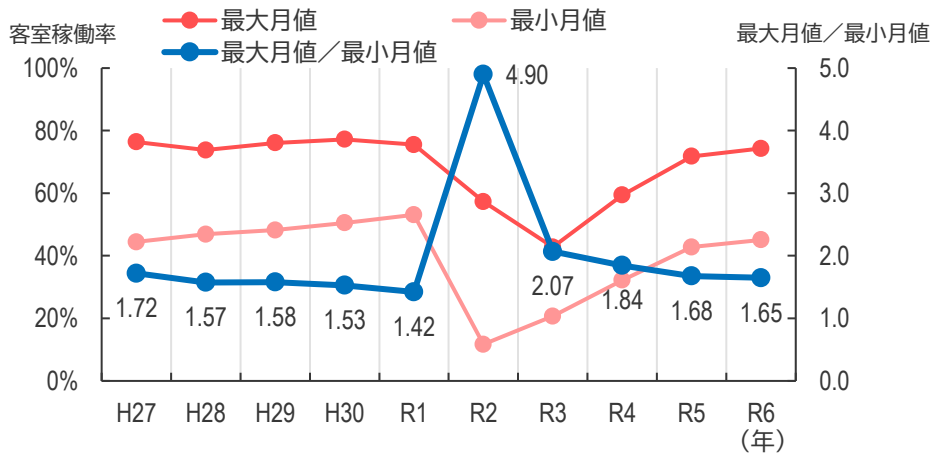
➢ 外国人の宿泊は冬期(12～2月)、次いで7月が多くなる傾向がある。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成 ※数字はR6年。

■最大月及び最小月の客室稼働率

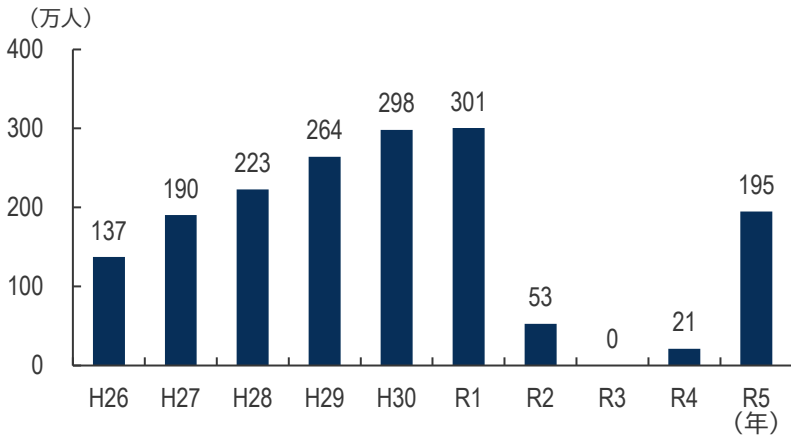
➢ 客室稼働率の最大月と最小月の比は低下傾向。



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」から北海道局作成 ※数字は最大月値/最小月値。

■外国人来道者数

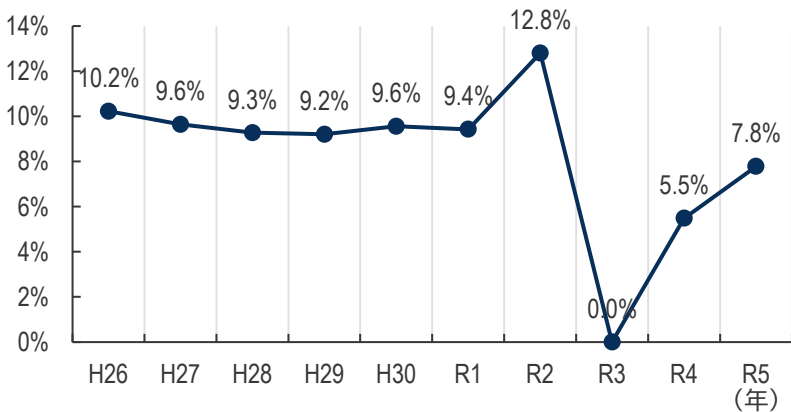
外国人来道者数は、コロナ禍を経て回復途上。



出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

■訪日外国人旅行者数の北海道シェア

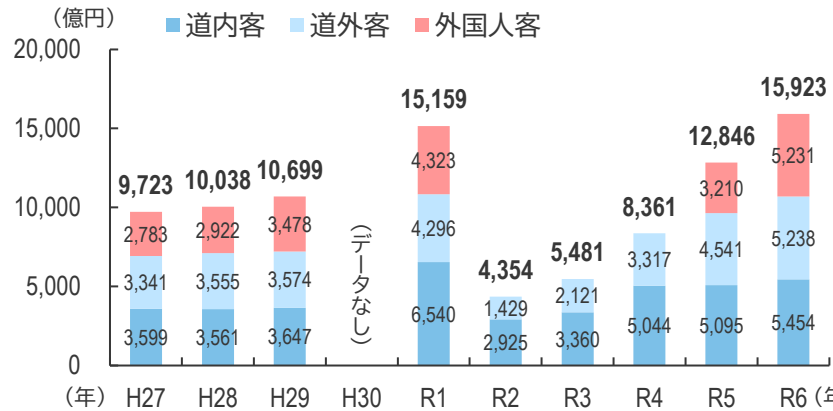
訪日外国人旅行者数に占める北海道シェアは、コロナ禍以前は10%前後で推移。



出典：日本政府観光局「訪日外客数」、北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

■来道旅行者の観光消費額(道内客・道外客・外国人客)

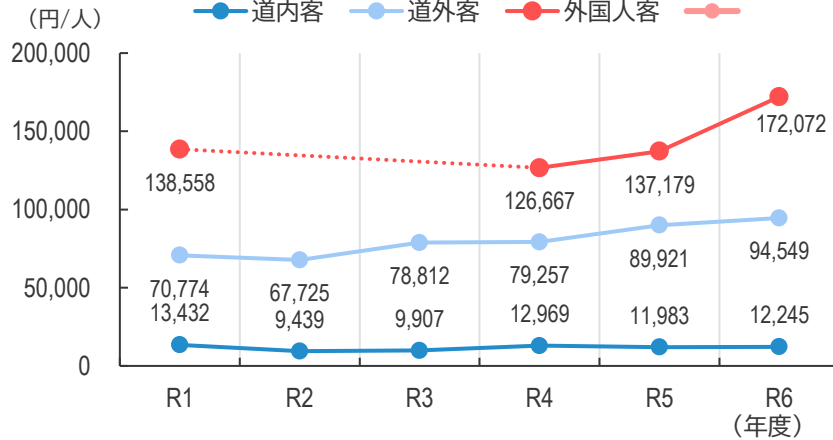
道内客・道外客・外国人客で3分する傾向。外国人客の消費は回復途上。



出典：観光庁「共通基準による観光入込客統計」(H26～H29年)、北海道観光機構「北海道来訪者満足度調査報告書」(R1～R6年度)から
※H26～H29年は暦年、R1年度以降は年度。

■来道旅行者の1人当たり消費額(道内客・道外客・外国人客)

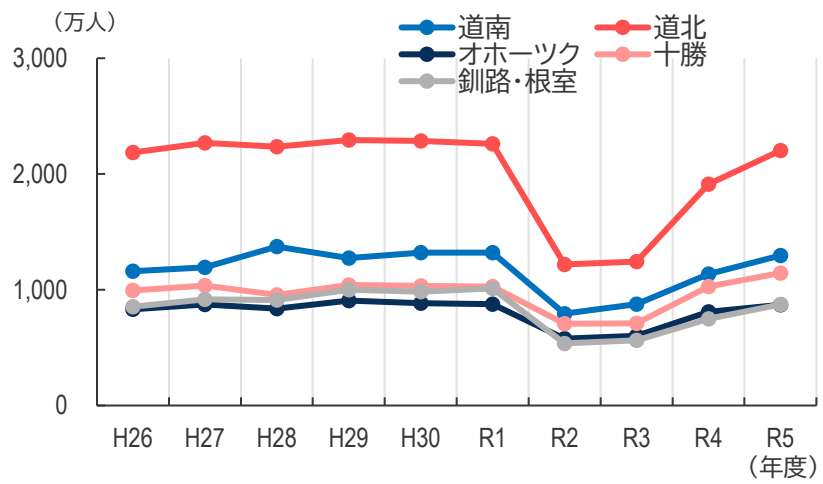
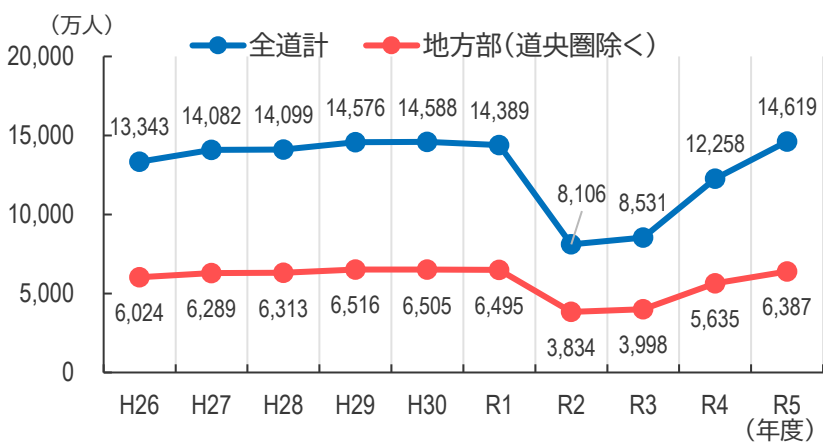
近年、道外客の1人当たり消費額が漸増傾向。



出典：北海道観光機構「北海道来訪者満足度調査報告書」から
※R2～3年度は外国人客の消費データなし。

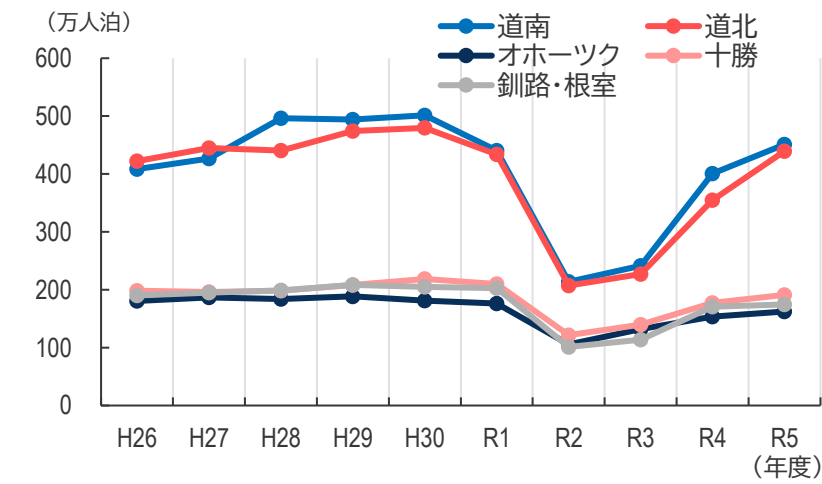
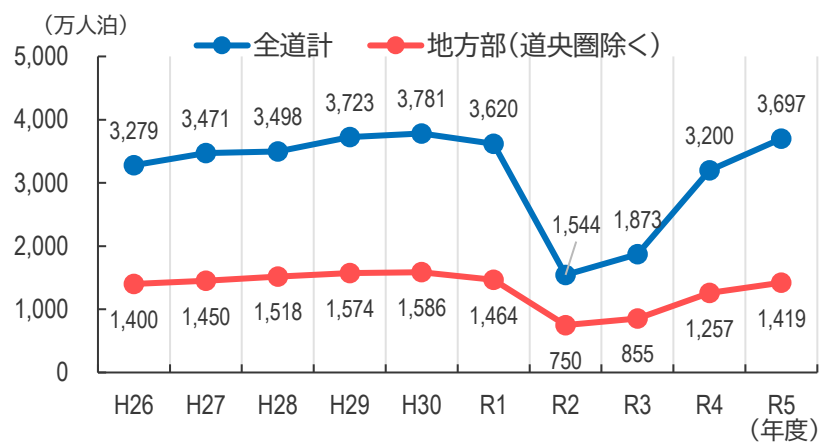
■圏域別 観光入込客数

- R5年度にはコロナ禍以前の水準までほぼ回復。
- 道央圏が全道の56%を占める。



■圏域別 国内宿泊客延数

- R5年度にはコロナ禍以前の水準までほぼ回復。
- 道央圏が全道の62%を占める。



出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から
北海道局作成

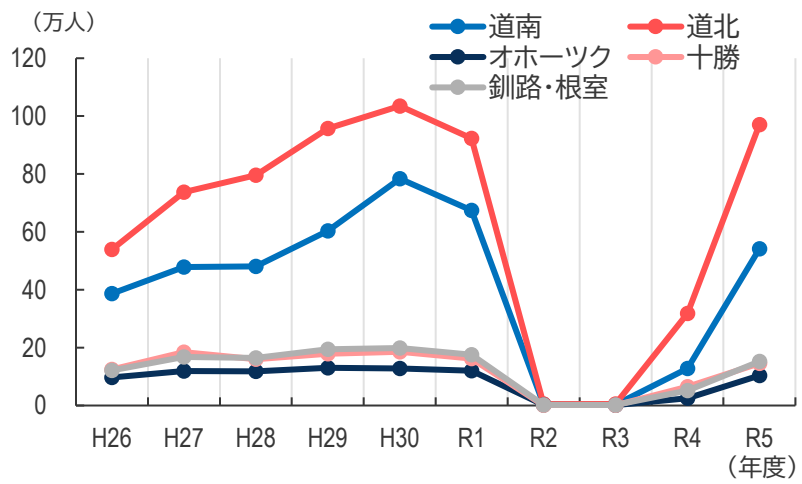
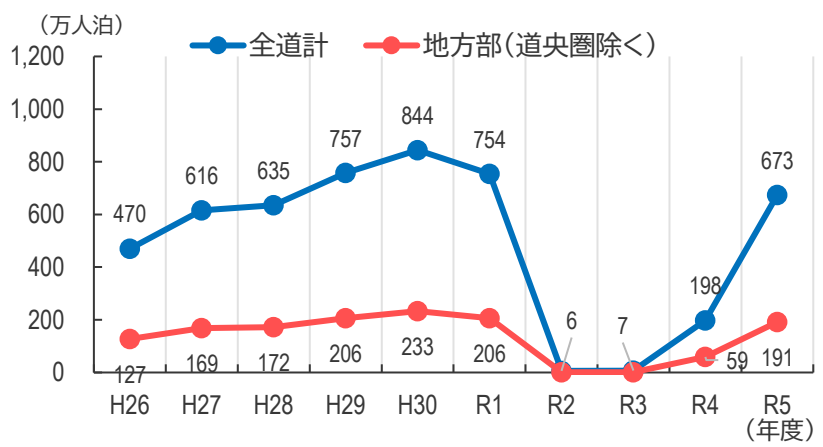
※R1、R4年度の数値は、公表値修正後のもの。

出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から
北海道局作成

※R4年度の数値は、公表値修正後のもの。

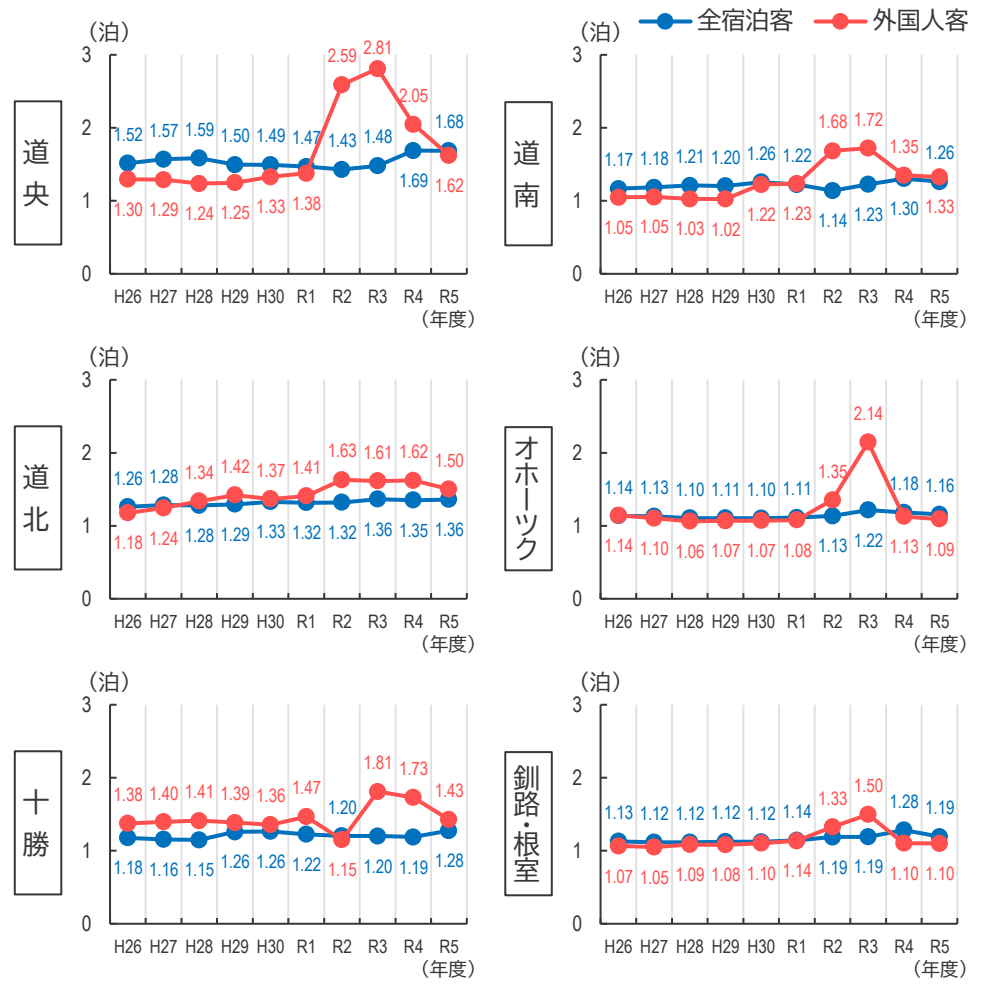
■圏域別 外国人宿泊客延数

- R5年度にはコロナ前ピークの8割程度まで回復。
- 道央圏が全道の72%を占める。



■平均泊数(全宿泊者・外国人客)

- 外国人の平均泊数は、道央・道南・道北でコロナ禍以前よりも増加傾向。

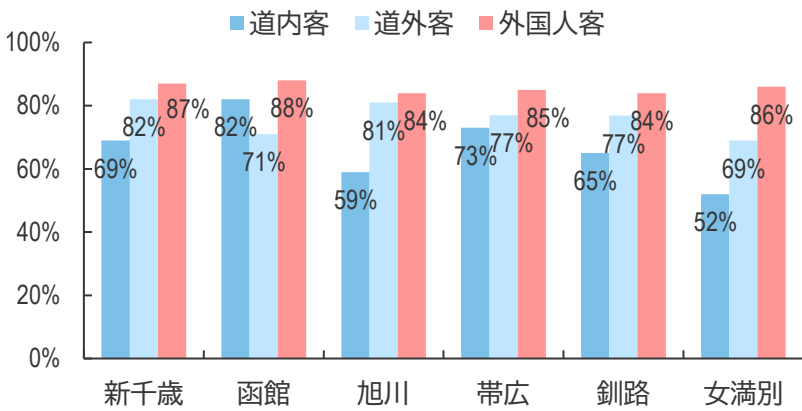


出典: 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から 北海道局作成 ※H27、R4年度の数値は、公表値修正後のもの。

出典: 北海道観光機構「北海道来訪者満足度調査報告書」から北海道局作成

■道内観光の満足度(道内客・道外客・外国人客)

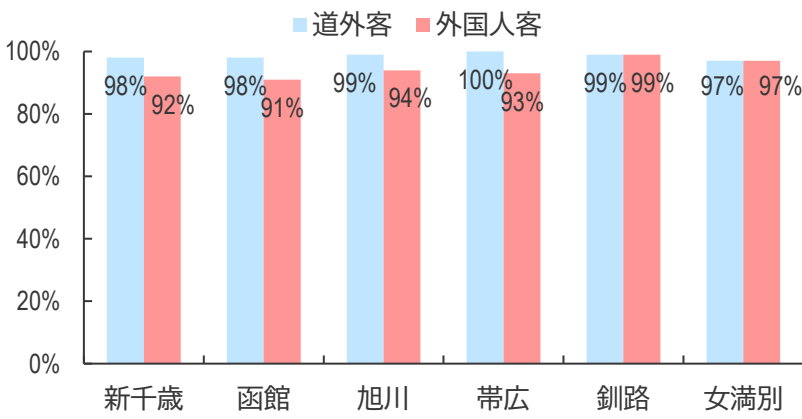
➢ 外国人客の満足度は高い。



出典：北海道観光機構「北海道来訪者満足度調査報告書」から 北海道局作成 ※R6年度調査結果。
※6圏域の主要空港別満足度

■北海道への再訪意欲(道外客・外国人客)

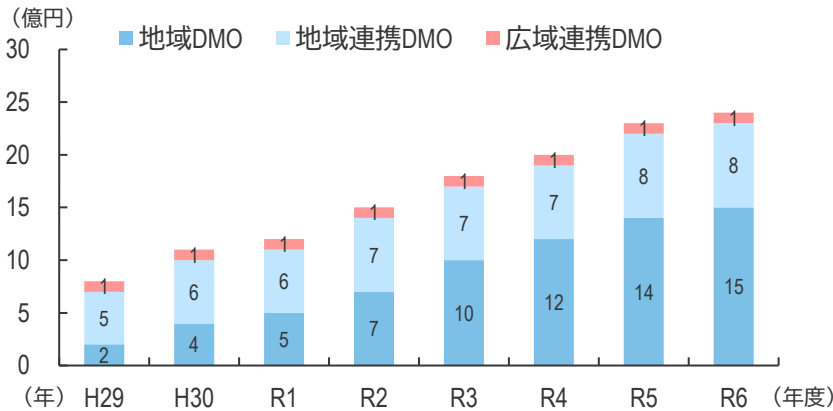
➢ 道外客・外国人客ともに、再訪意欲は高い。



出典：北海道観光機構「北海道来訪者満足度調査報告書」から 北海道局作成 ※R6年度調査結果。
※6圏域の主要空港別再訪意欲。

■道内のDMO登録件数(持続可能な観光地域づくりに取り組む地域)

➢ 近年増加傾向。累計24件が登録(R6年9月24日現在)。



出典：観光庁「地域づくり法人(DMO)」(R6年9月24日現在)から北海道局作成
※R4年度の登録DMO3件のうち、1件は登録済みDMOからの移行のためカウントしていない。

■国際認証・表彰の地域数

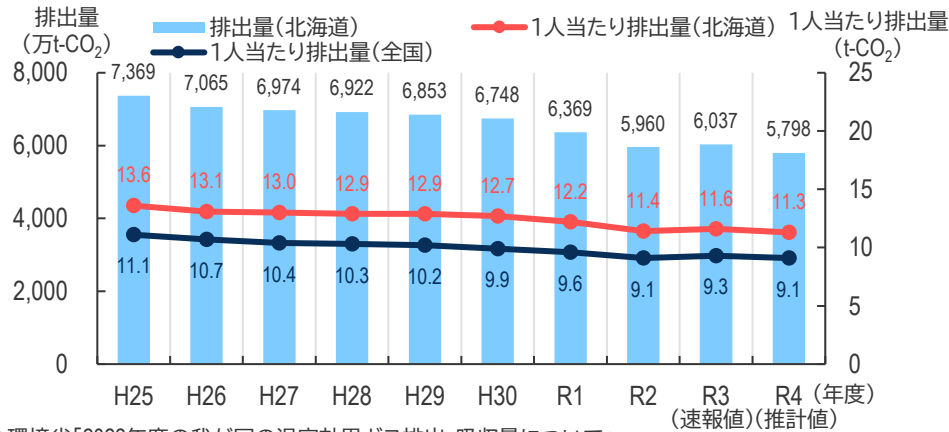
➢ 近年、持続可能な観光地域づくりに取り組む地域として、ニセコ町、弟子屈町及び美瑛町が国際的な認証・表彰を取得。

年	グリーン・デスティネーションズによる表彰	ベスト・ツーリズム・ビレッジによる認定
R2	ニセコ町	
R3	ニセコ町	ニセコ町
R4		
R5	ニセコ町、弟子屈町	美瑛町
R2～R5年累計	4件	2件

出典：Green Destinations Japan「受賞地域」、観光庁HPから北海道局作成

■温室効果ガス排出量

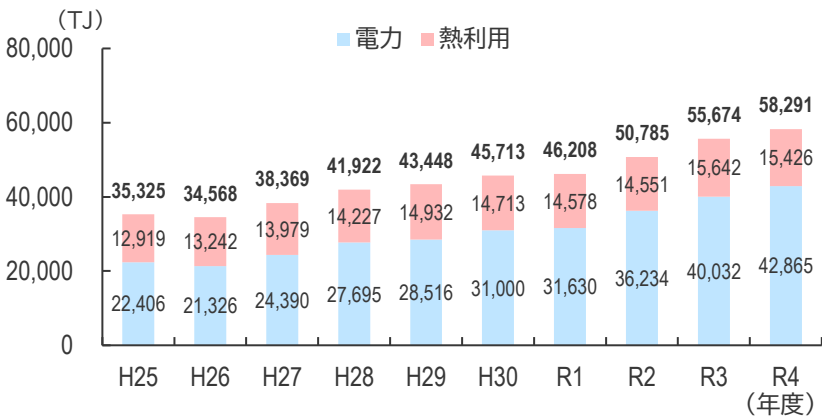
➢ 総量・1人当たりともに減少傾向だが、1人当たりでは全国の1.24倍。



出典：環境省「2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量について」、
北海道「北海道環境白書'24」から北海道局作成

■新エネルギーの発電電力量・熱利用量

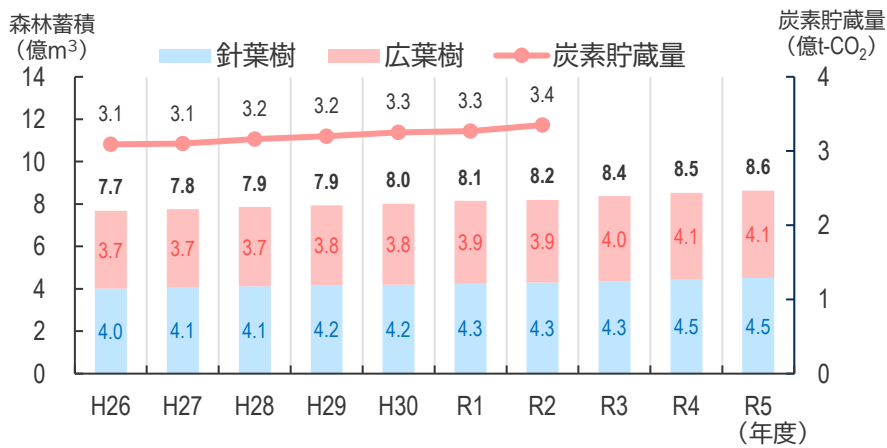
➢ 新エネルギーの利用実績、特に電力での利用実績は、年々増加傾向。



出典：北海道「省エネルギー・新エネルギー関連施策の取組状況」から北海道局作成

■森林蓄積・森林の炭素貯蔵量

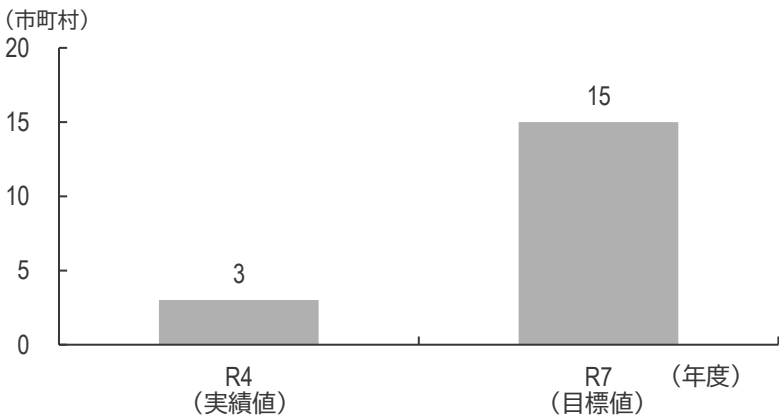
➢ 森林蓄積・炭素貯蔵量ともに増加傾向。



※森林蓄積：各年4月1日現在、炭素貯蔵量：年度
出典：北海道「北海道森林づくり白書」、「北海道林業統計」から北海道局作成

■地域マイクログリッド構築に取り組む市町村数

➢ R4年度時点で3件。(今後、毎年データが公表される予定)

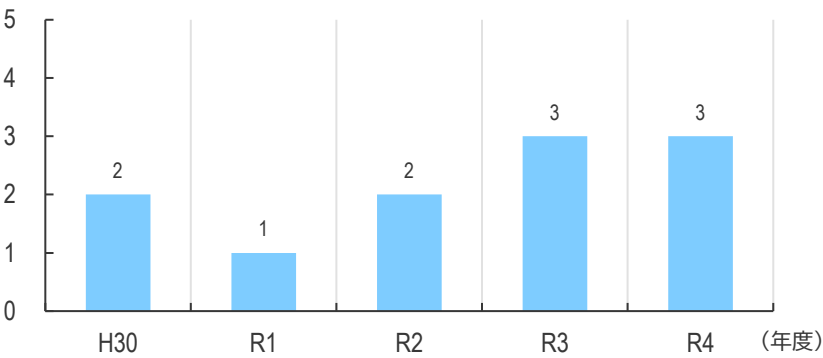


出典：北海道「令和5年度 基本評価調査」から北海道局作成

■洋上風力の発電電力量

➤ 洋上風力の発電電力量は年々増加傾向。

(百万KWh)

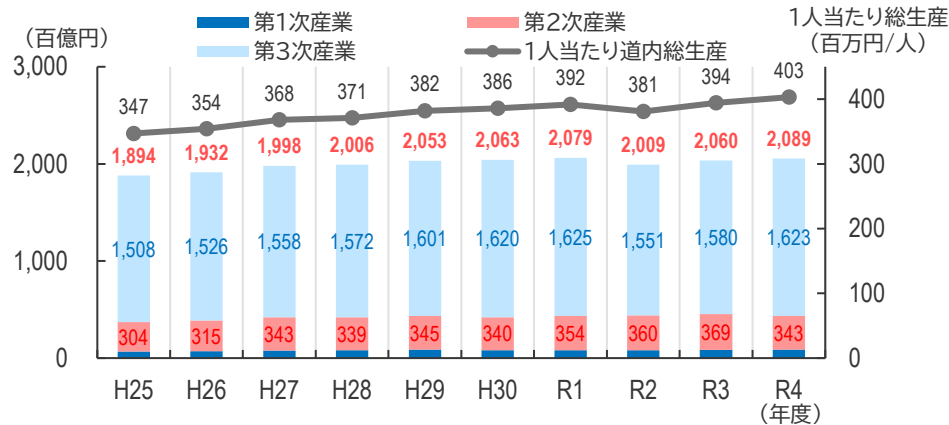


出典：北海道「道内における審エネルギーの導入状況」、
北海道「北海道省エネ・新エネ促進条例、行動計画等 関連施策と取組」から北海道局作成

第1節 4. 地域の強みを活かした成長産業の形成①

■道内総生産・1人当たり道内総生産

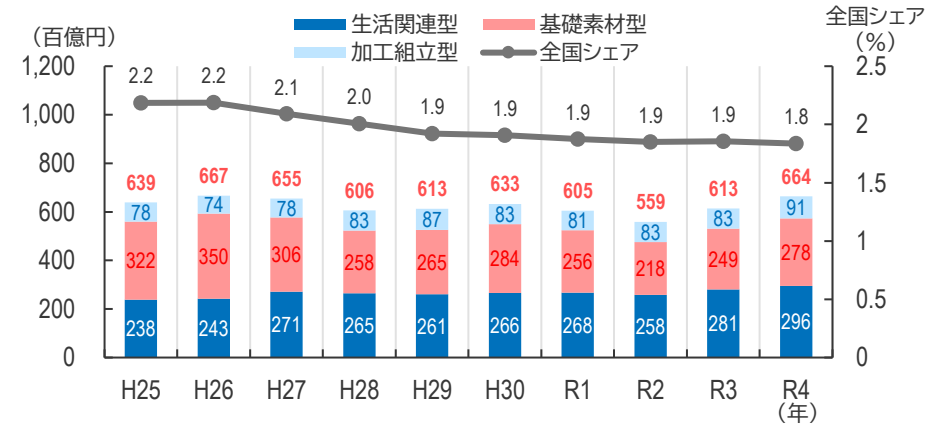
➤ 道内総生産は20兆円前後で推移。1人当たり総生産は漸増傾向。



出典：北海道「令和3年度(2021年度)道民経済計算」、
北海道地域行政局市町村課調べ「住民基本台帳人口・世帯数」から北海道局作成

■製造品出荷額

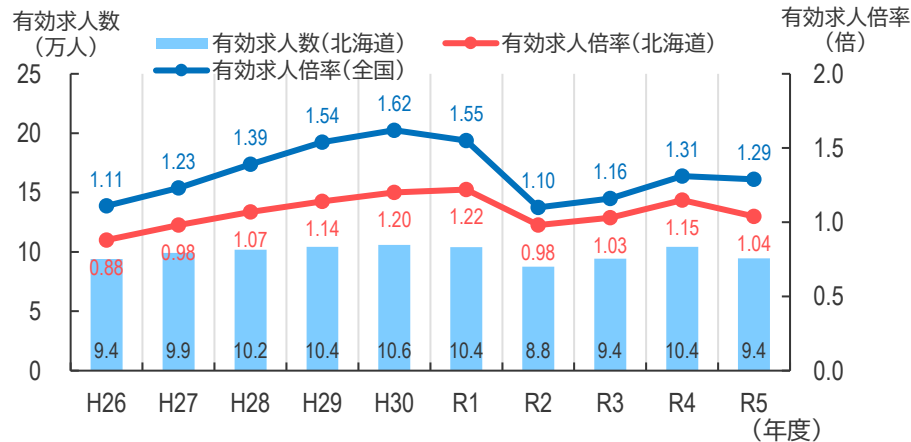
➤ 製造品出荷額は近年増加傾向にあるが、全国シェアは低下傾向。



出典：北海道「工業統計調査」、総務省統計局「経済センサス活動調査」、
経済産業省「経済構造実態調査(製造事業所調査)」から北海道局作成

■有効求人倍率

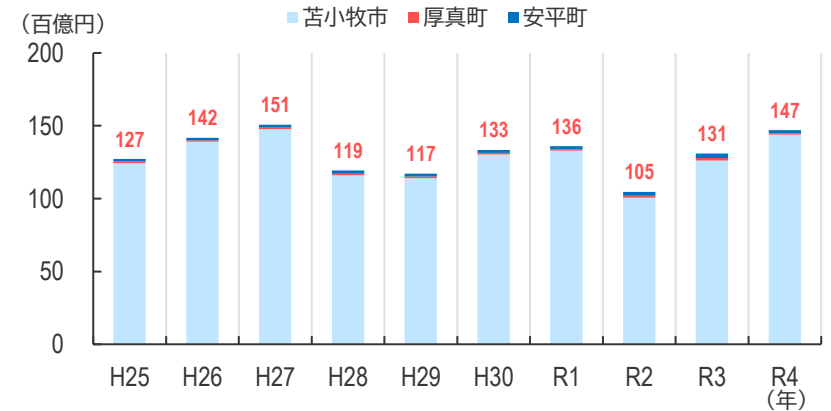
➤ 有効求人倍率はコロナ禍以降1.0～1.1倍前後で推移。



出典：厚生労働省「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」から北海道局作成

■苫小牧東部地域における製造品出荷額(苫小牧市・厚真町・安平町)

➤ 苫小牧東部地域における製造品出荷額は1.0～1.5兆円前後で推移。

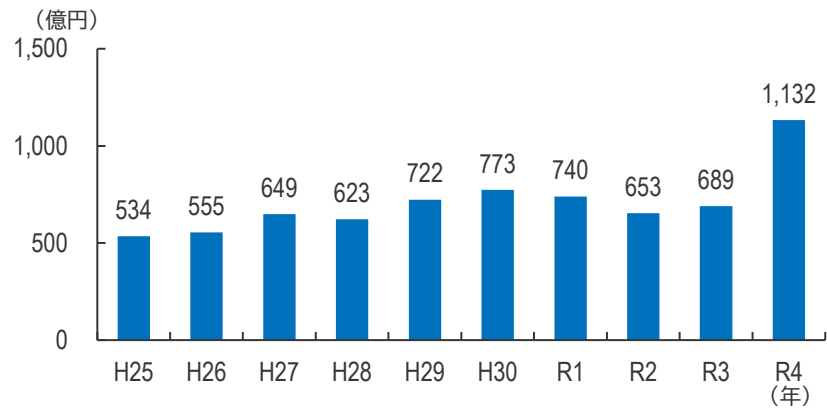


出典：北海道「工業統計調査」、総務省統計局「経済センサス活動調査」、
経済産業省「経済構造実態調査(製造事業所調査)」から北海道局作成

第1節 4. 地域の強みを活かした成長産業の形成②

■半導体関連産業の出荷額

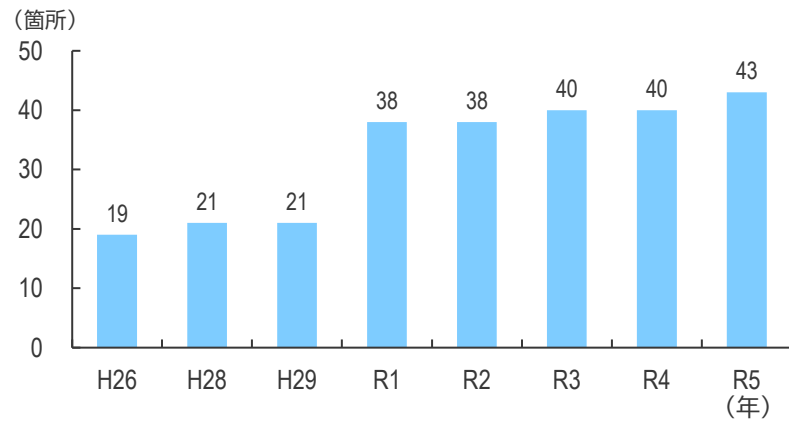
➤ 半導体関連産業の出荷額は近年増加傾向。



出典：北海道「工業統計調査」、総務省統計局「経済センサス活動調査」、経済産業省「経済構造実態調査(製造事業所調査)」から北海道局作成

■北海道内のデータセンター立地数

➤ データセンター立地数は増加傾向。

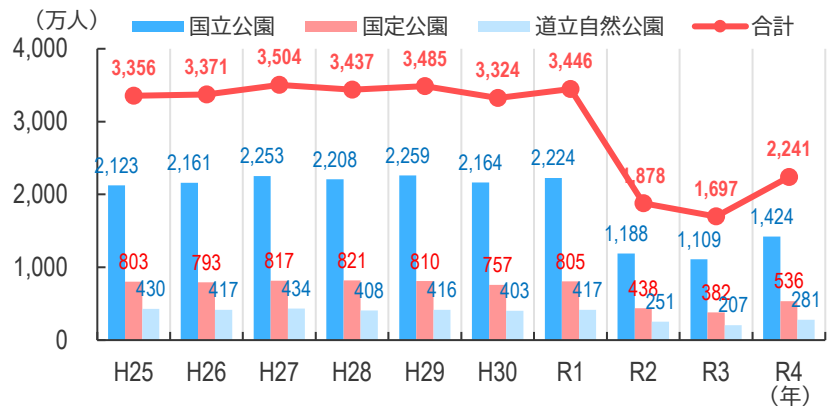


出典：インプレス総合研究所「データセンター調査報告書」から北海道局作成

第1節 5. 自然共生社会・循環型社会の形成

■自然公園利用者数

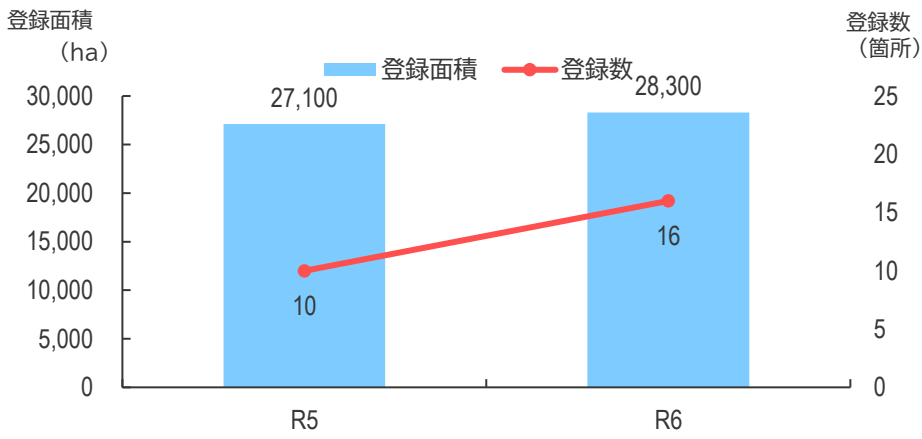
➤ コロナ禍を経て回復途上。



出典：環境省「R4年自然公園等利用者数調」から北海道局作成

■自然共生サイト登録数、登録面積

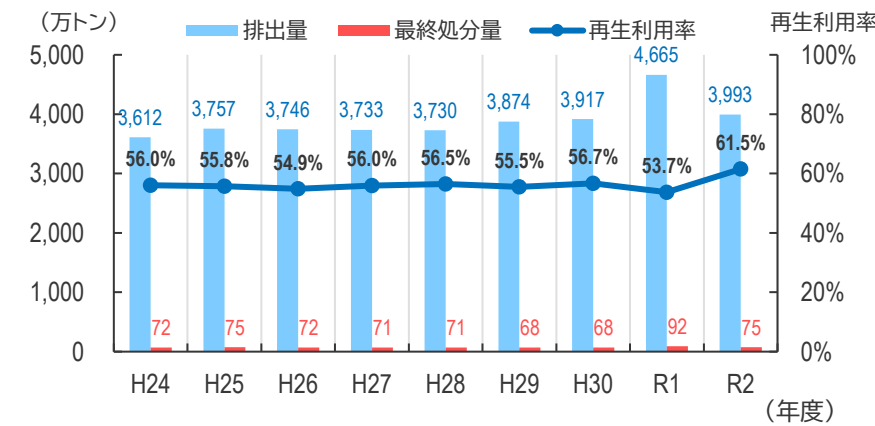
➤ 自然共生サイト登録数、登録面積ともに増加傾向。



出典：環境省「30by30自然共生サイト」HPから北海道局作成

■産業廃棄物排出量・最終処分量・再生利用率

➤ 排出量は増加傾向。再生利用率はR2年度に上昇。

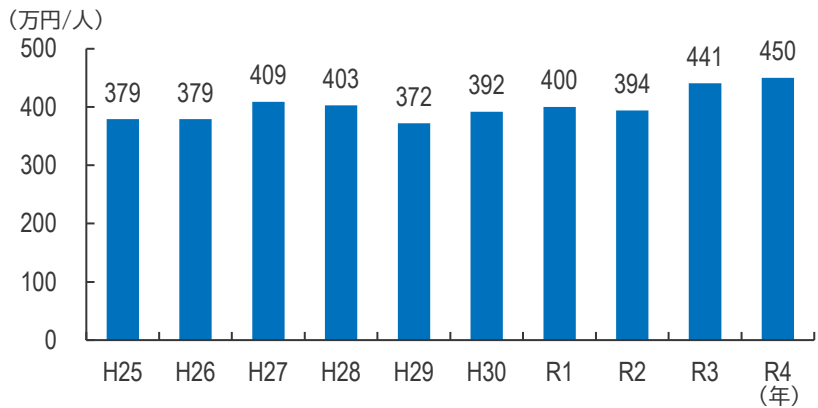


出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等」、北海道「北海道産業廃棄物処理状況調査」から北海道局作成

第1節 6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興

■北方領土隣接地域の1人当たり主要生産額

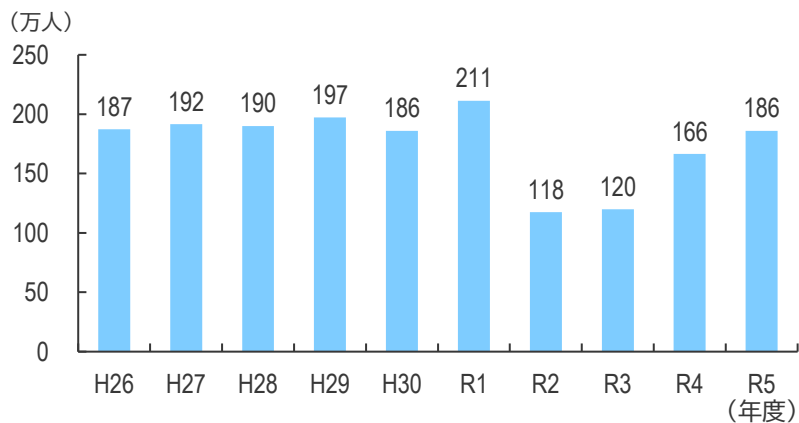
➤ 北方領土隣接地域(根室市・別海町・中標津町・標津町・羅臼町)の人口1人当たり主要生産額(農業・漁業・製造業計)は微増傾向。



出典：農林水産省「市町村別農業算出額(推計)」、北海道「水産統計(北海道水産現勢)」、経済産業省「経済構造実態調査(製造業事業所調査)」、北海道「住民基本台帳人口・世帯数」等から北海道局作成

■国境周辺地域への観光入込客数

➤ コロナ禍を経て回復傾向。

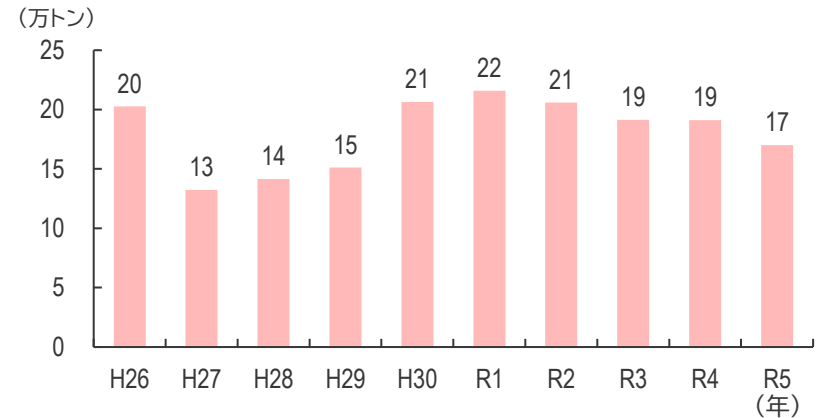


出典：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」から北海道局作成

※宗谷総合振興局管内・奥尻町の合計。

■国境周辺地域の漁業生産量

➤ 近年20万トン前後で推移。

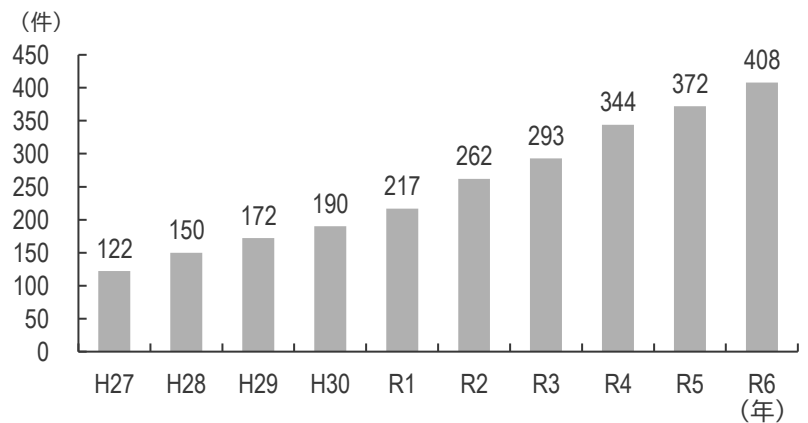


出典：北海道「水産統計(北海道水産現勢)」から北海道局作成

※宗谷総合振興局管内・奥尻町の合計。

■国境周辺地域の再生可能エネルギー導入実績

➤ 再生可能エネルギーの導入件数は年々着実に増加。



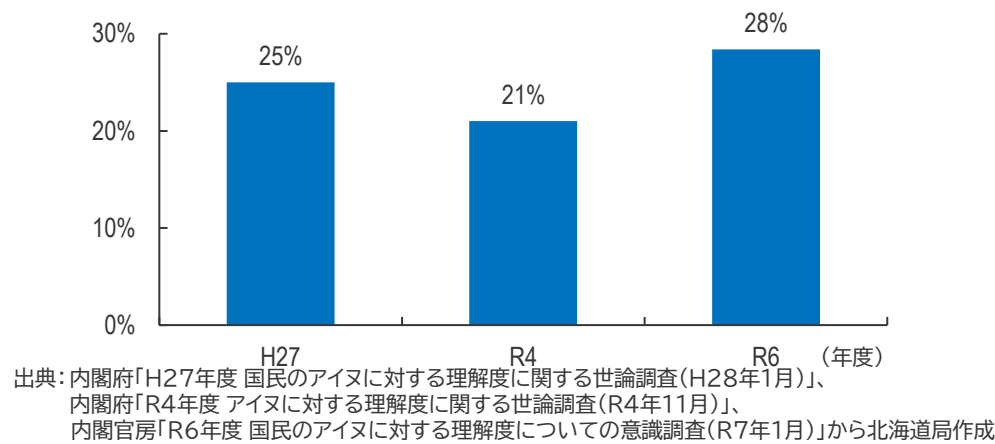
出典：資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用に関する特別措置法 情報公表用ウェブサイト」から北海道局作成

※各年3月末時点。
※宗谷総合振興局管内・奥尻町の合計。

第1節 7. アイヌ文化の振興等

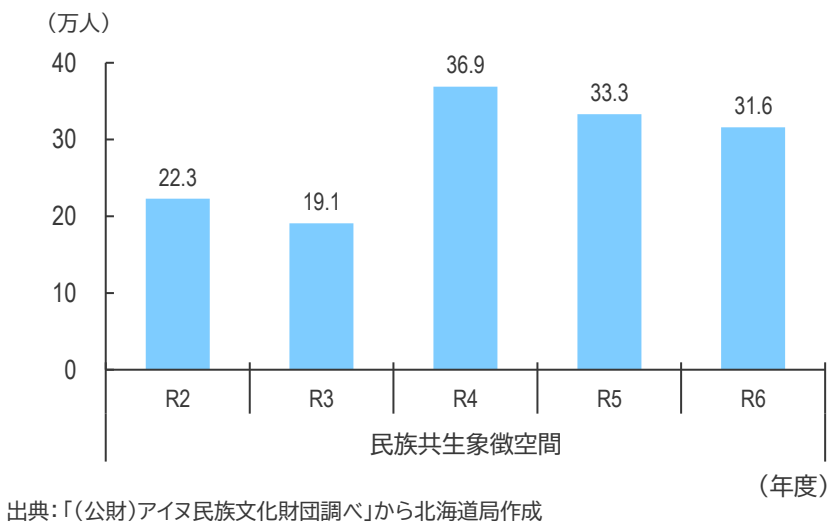
■アイヌの人々やアイヌ文化に接したことがある割合

➤ 近年、2割程度にとどまっている。



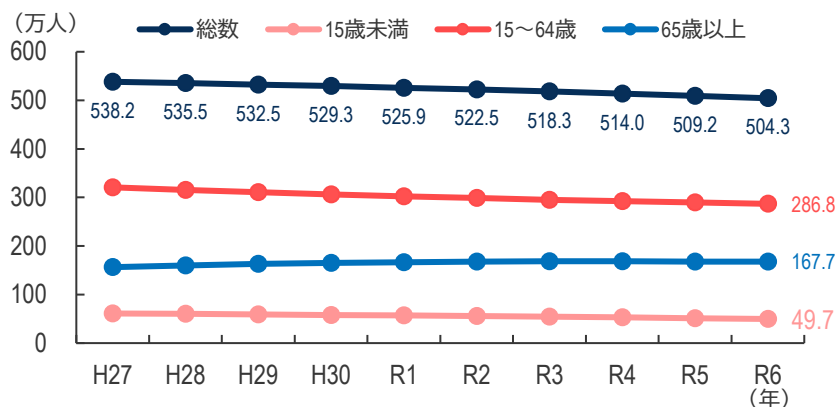
■民族共生象徴空間(ウポポイ)への年間来場者数

➤ R4年度以降、30万人以上が来場。



■北海道の人口

➤ 北海道の人口は減少傾向が継続。

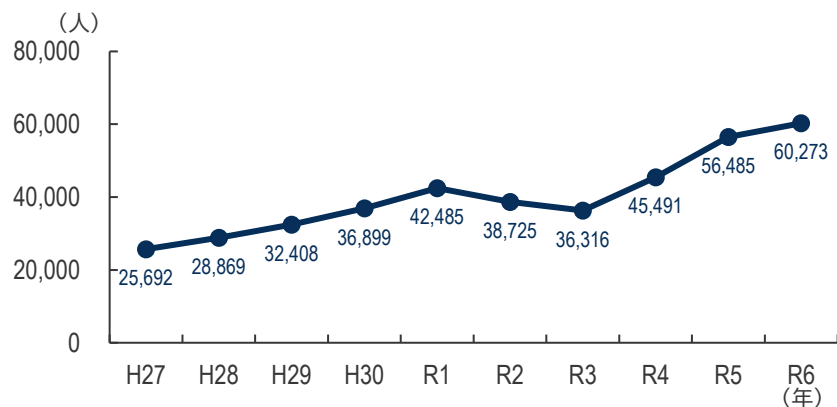


出典：総務省「国勢調査」「人口推計」から
北海道局作成

※各年10月1日現在。

■在留外国人数

➤ コロナ禍以降、年約1万人のペースで増加。

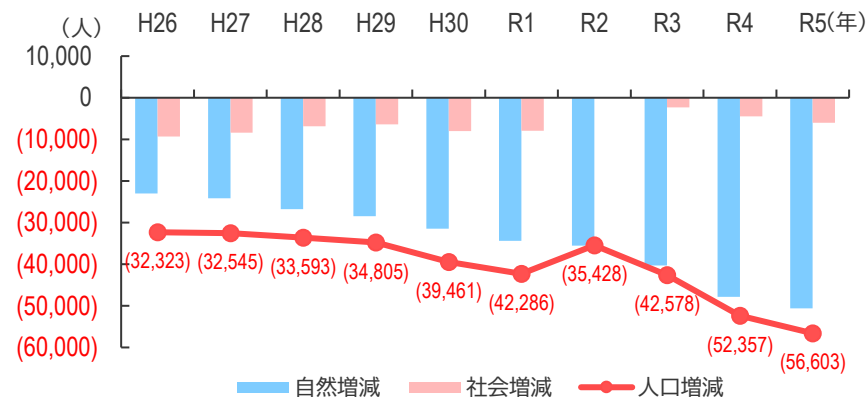


出典：法務省「在留外国人統計」から
北海道局作成

※各年12月末現在。R6年のみ6月末現在。

■人口増減数(自然・社会増減:日本人)

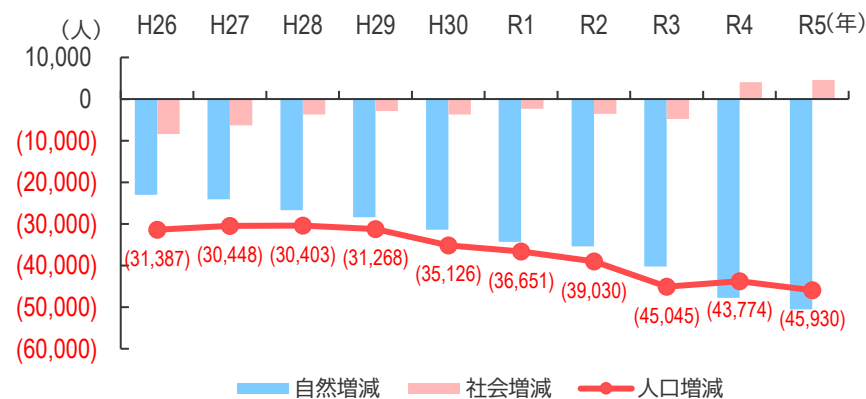
➤ 近年、自然減が拡大傾向にあり、人口減少が加速。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」から北海道局作成

■人口増減数(自然・社会増減:日本人+外国人)

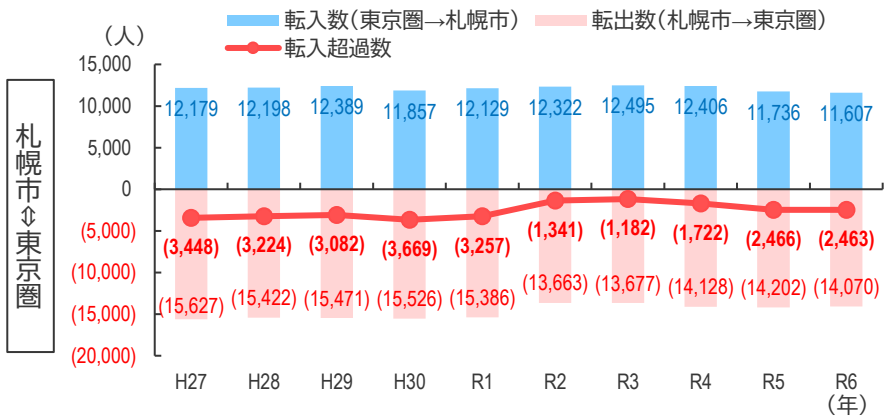
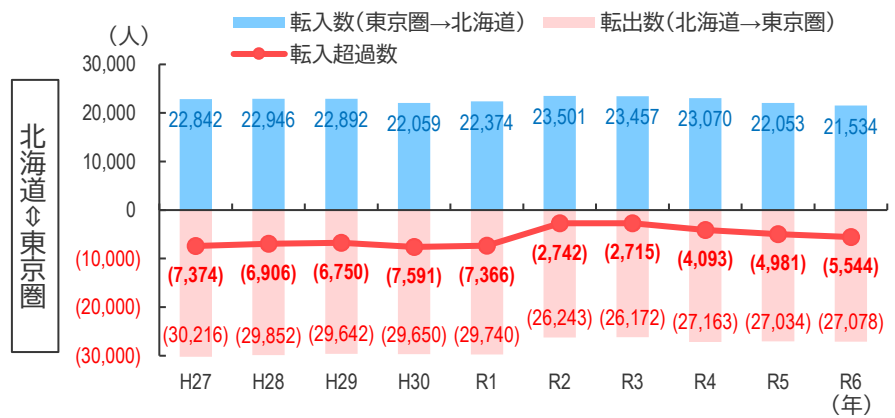
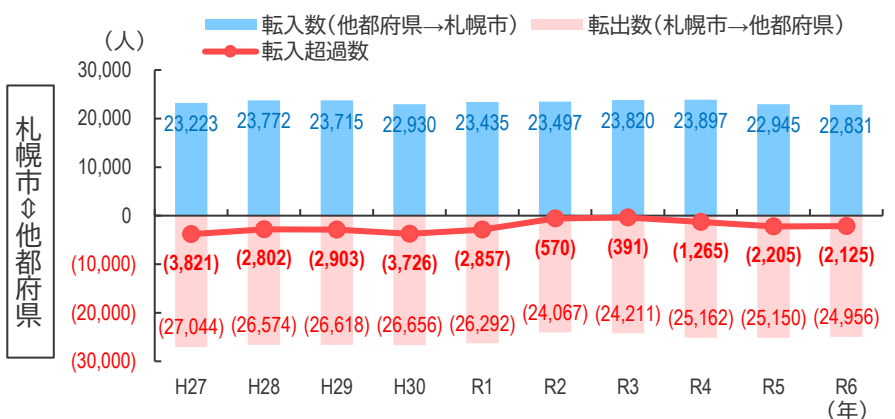
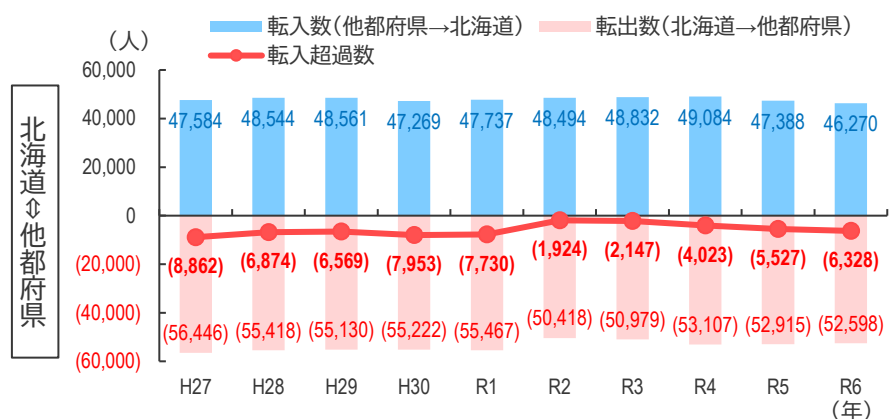
➤ 外国人の流入増が人口減少を若干緩和。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」から北海道局作成

■転入数・転出数・転入超過数

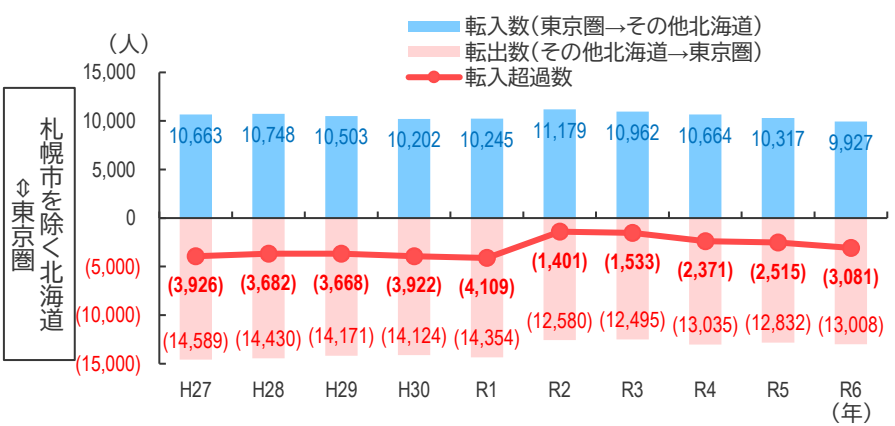
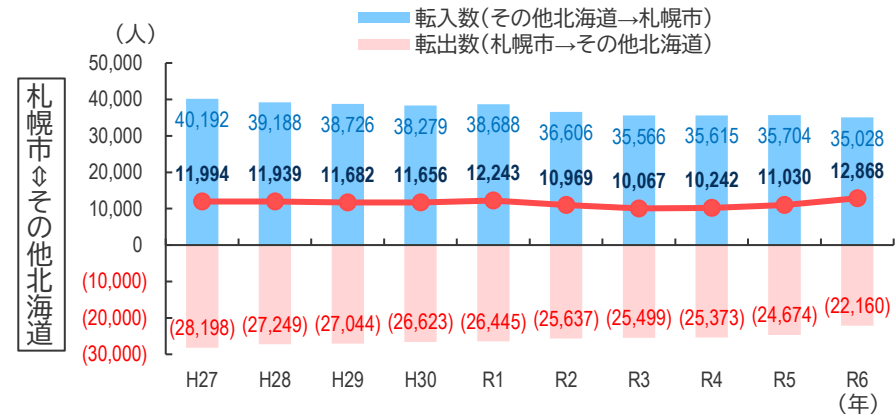
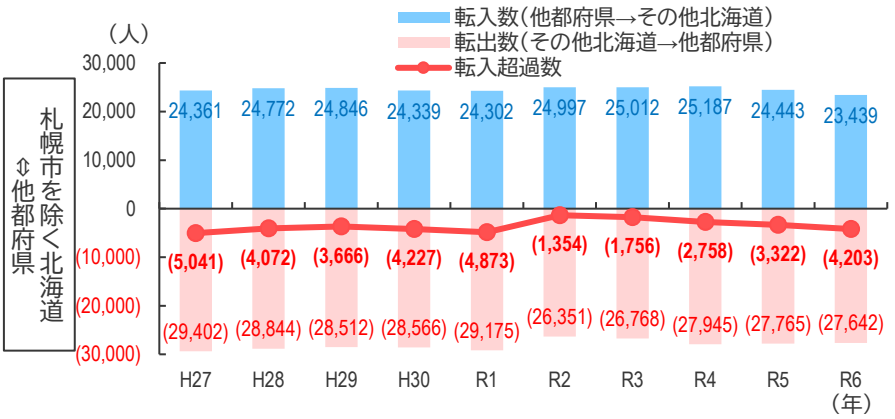
➢ 他都府県・東京圏との関係では、北海道、札幌市ともに転出超過が継続。



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」から北海道局作成

■転入数・転出数・転入超過数

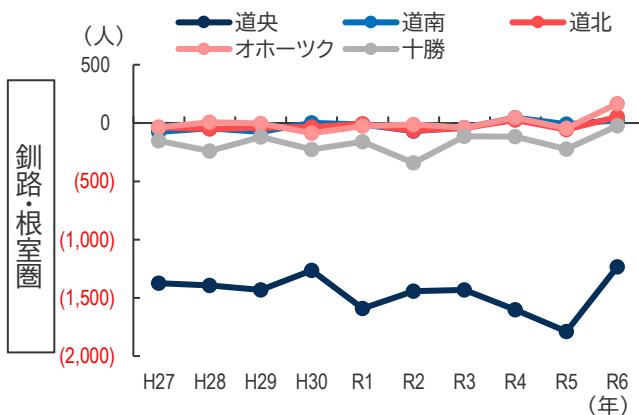
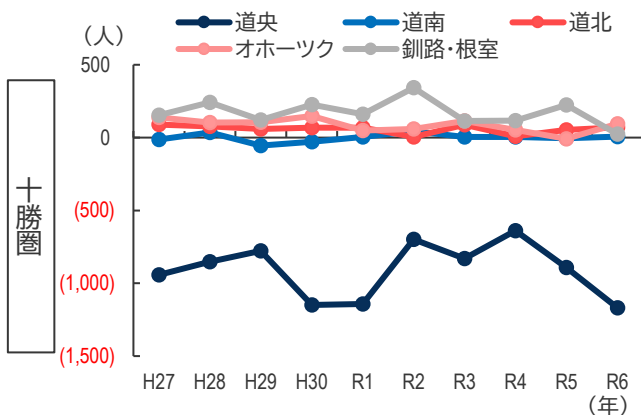
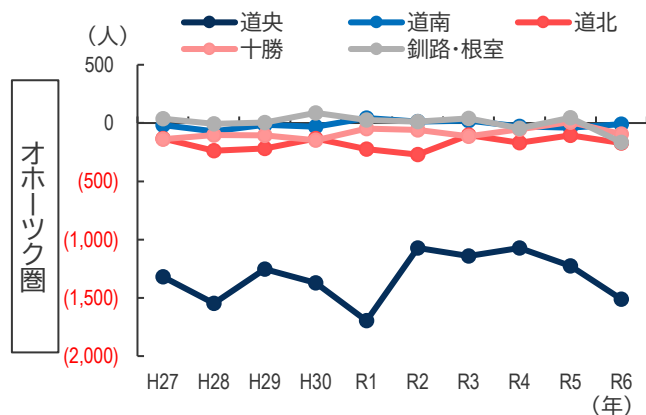
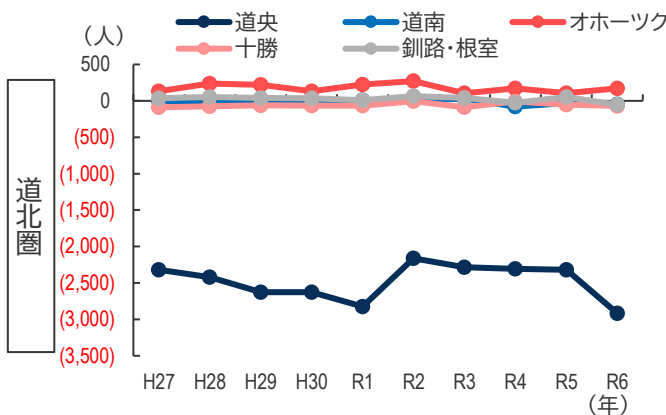
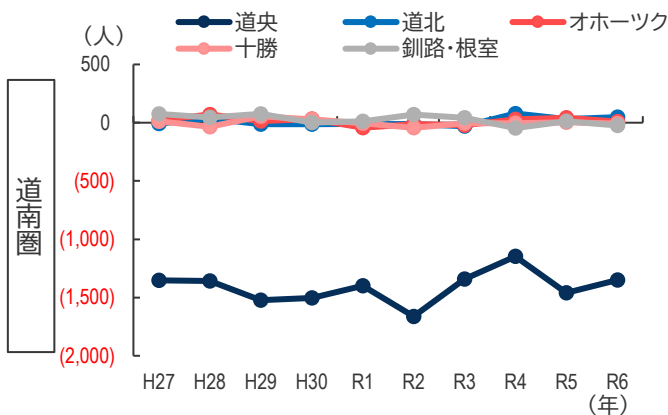
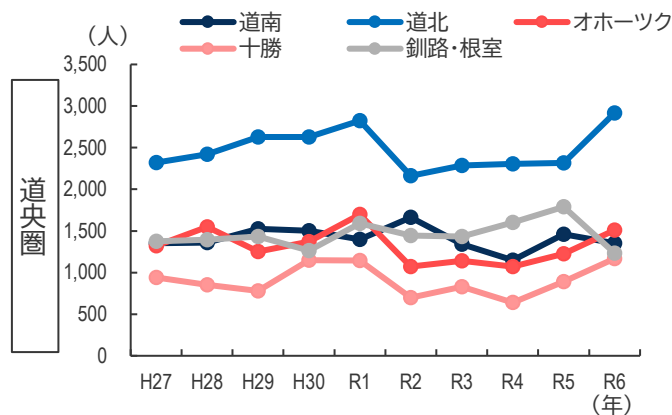
- 他都府県・東京圏との関係では、札幌市以外の北海道でも転出超過が継続。
- 札幌市では、道内他市町村からの転入超過が継続。



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」から北海道局作成

■転入超過数(6圏域間)

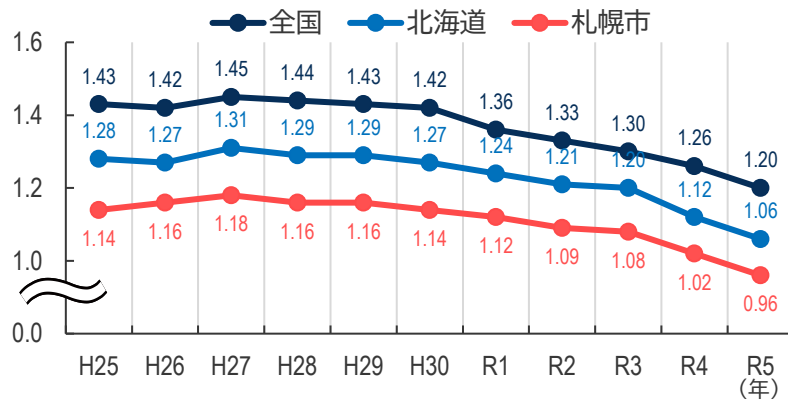
➤ 道央圏以外の5圏域から道央圏への転出超過が継続。



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」から北海道局作成

■合計特殊出生率

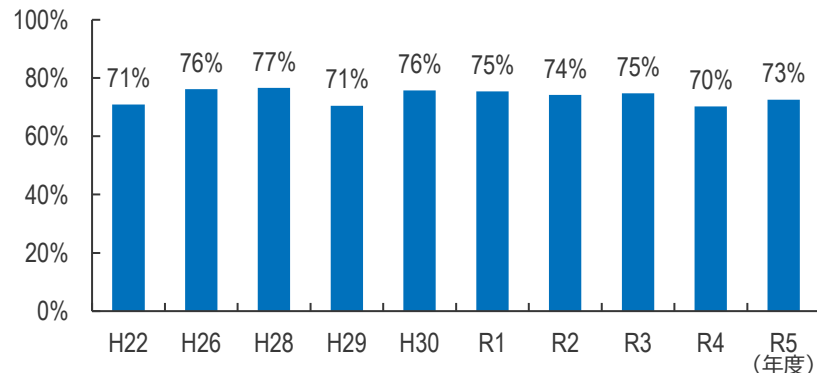
➤ 全国・北海道・札幌市ともに低下傾向。



出典：厚生労働省「人口動態統計」、札幌市「札幌市衛生年報」から北海道局作成

■「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と考える人の割合

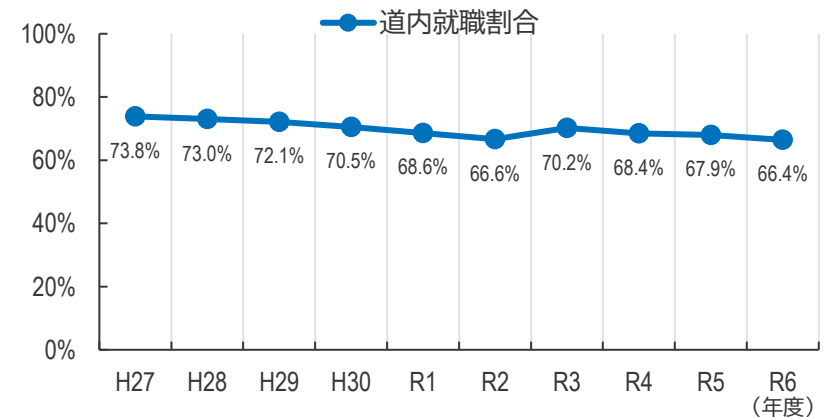
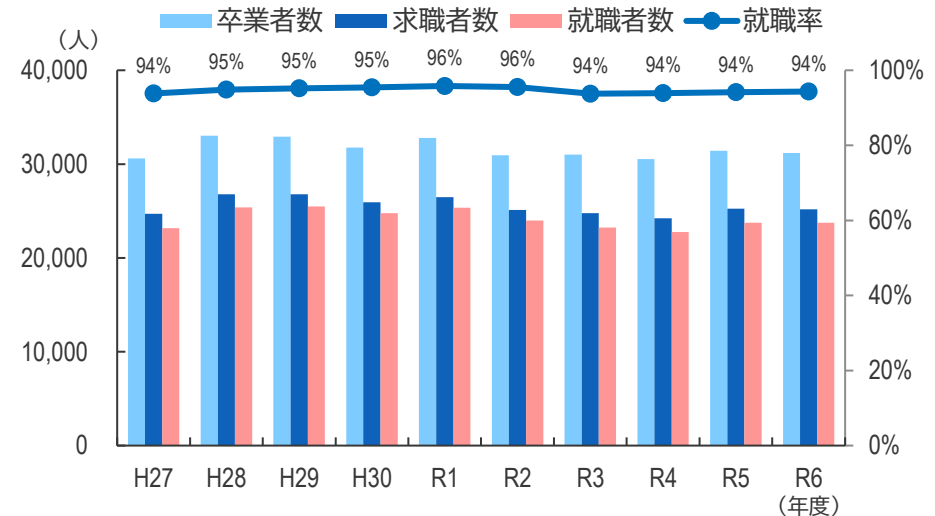
➤ 7割を超える水準で推移。



出典：北海道「道民意識調査」(～R1年度)、「北海道の人口減少などに関する意識調査」(R2年度～)から北海道局作成

■道内新規大学等卒業者の就職状況

➤ 新規大学等卒業者の就職率は、近年95%前後で推移。一方、道内就職割合は漸減傾向。

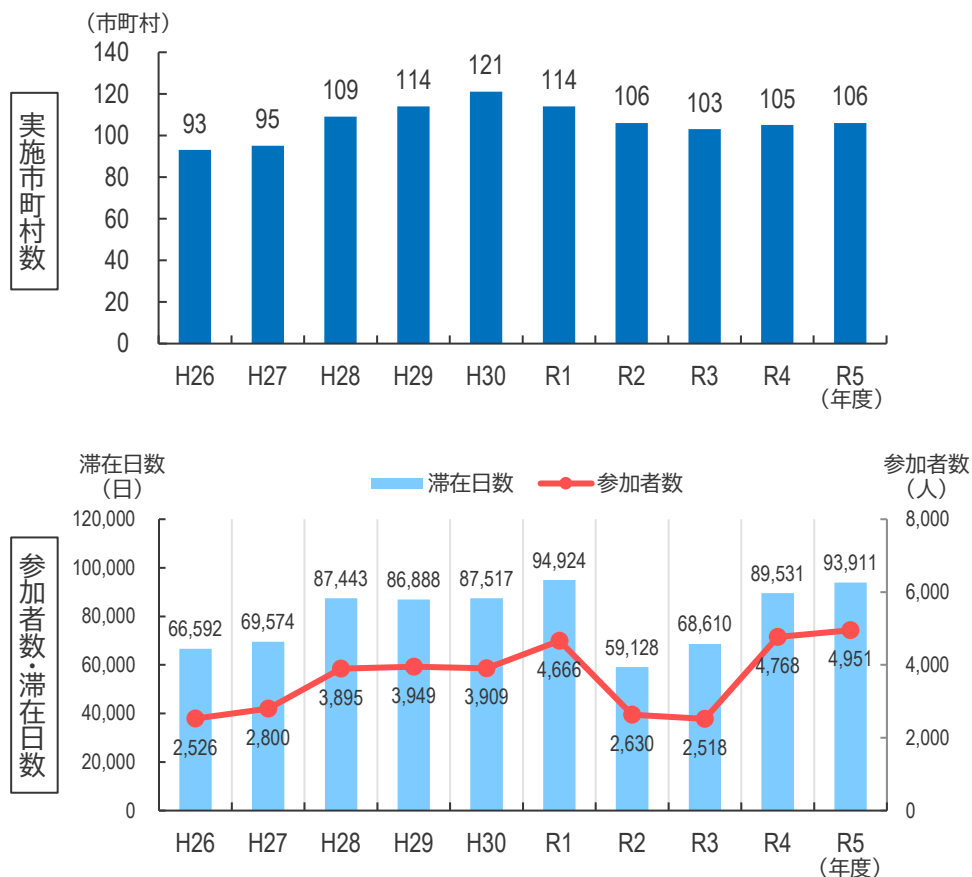


出典：北海道労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」から北海道局作成

2. 多様で豊かな地域社会の形成⑥

■北海道体験移住「ちょっと暮らし」実施市町村数・参加者数・滞在日数

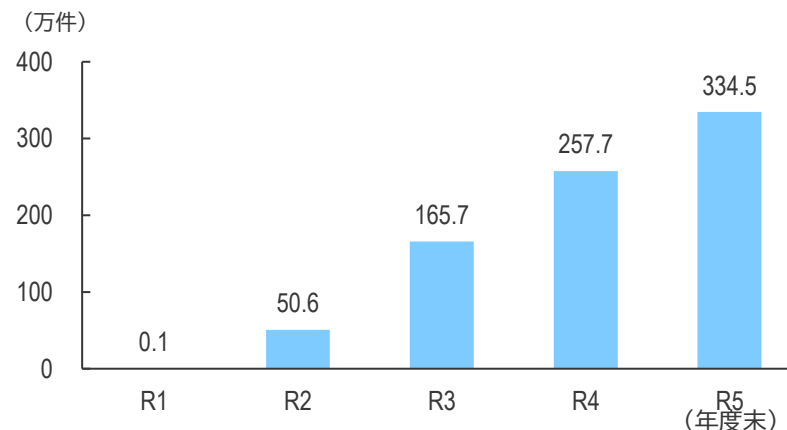
➤ コロナ禍を経て実施市町村数・参加者数・滞在日数ともに回復傾向。



出典：北海道「北海道体験移住『ちょっと暮らし』実績について」から北海道局作成

■5G契約数

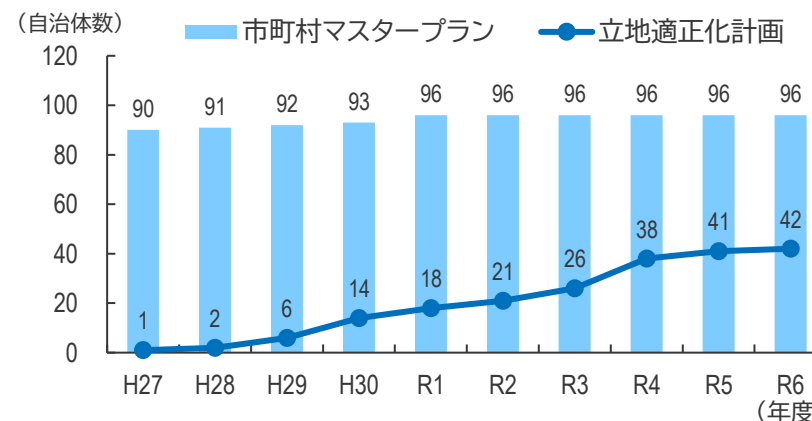
➤ 毎年着実に増加。



出典：総務省北海道総合通信局「ブロードバンドサービス契約の推移」から北海道局作成

■「立地適正化計画」策定自治体数

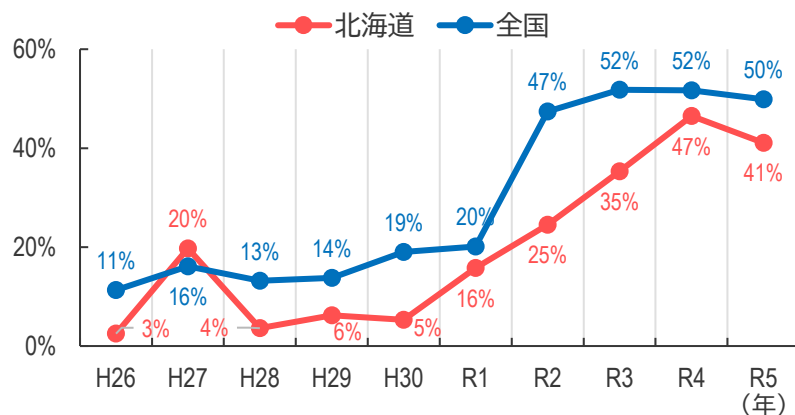
➤ 「立地適正化計画」を策定した自治体は増加傾向。



出典：北海道「市町村マスタープラン及び立地適正化計画の策定状況」(令和6年2月末現在)から北海道局作成

■道内テレワーク導入企業割合

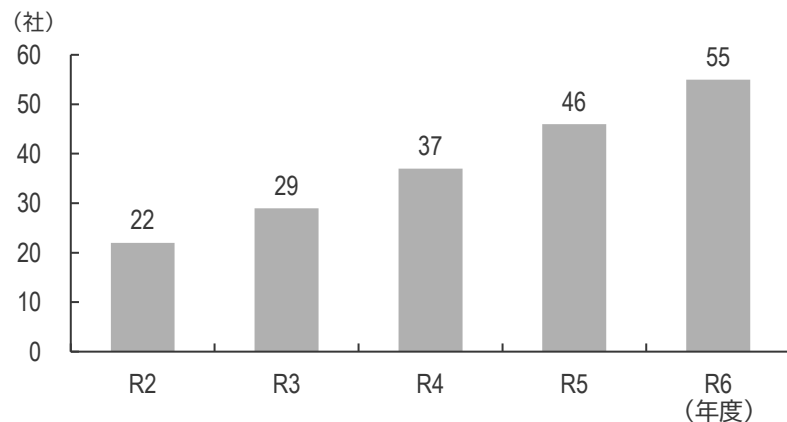
➤ 近年増加傾向。



出典：総務省「通信利用動向調査(企業編)」から北海道局作成

■J-Startup HOKKAIDO認定 スタートアップ企業の選定実績

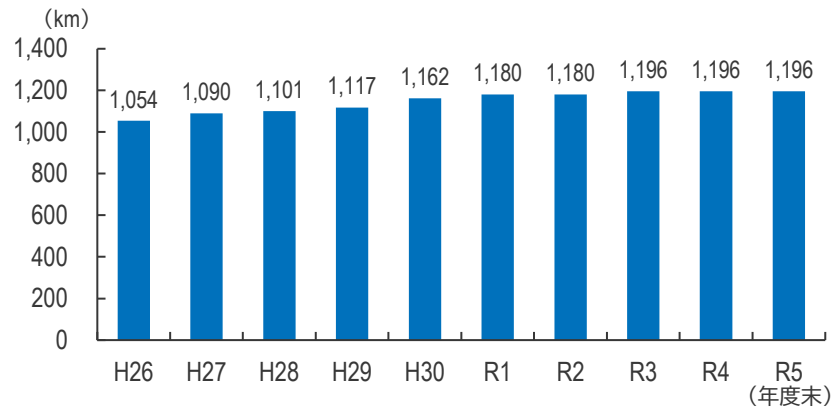
➤ 近年増加傾向。



出典：北海道経済産業局「J-Startup Hokkaido」、
経済産業省・JETRO・NEDO「J-Startup」HPから北海道局作成

■高規格道路開通延長

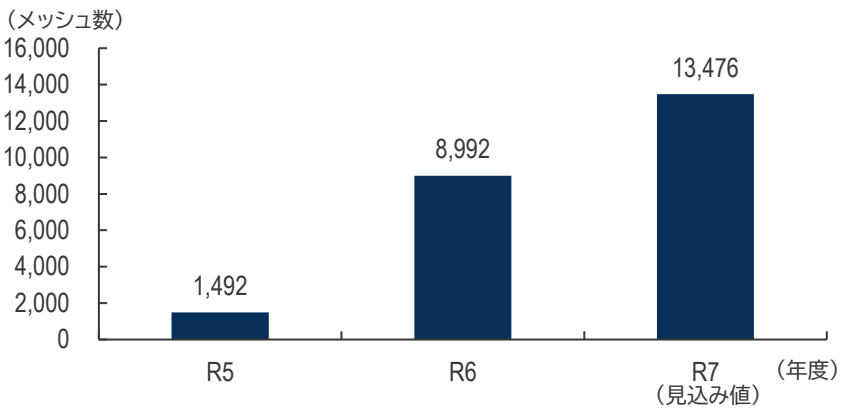
➢ 近年、整備が進捗している。



出典：北海道開発局調べ

■札幌へのアクセス時間が短縮された道内の範囲(1km²メッシュの数)

➢ 近年、札幌へのアクセス時間が改善するエリアが増加。

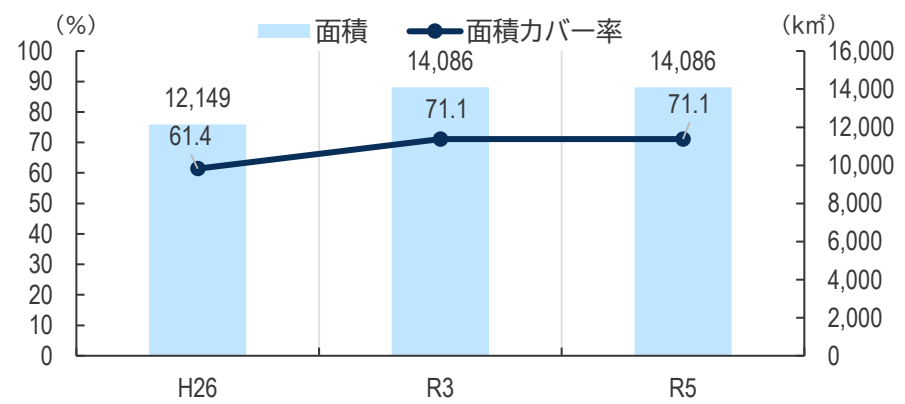


出典：北海道開発局調べ

※基準年：R4年度(R4年度を0として各年度のメッシュ数を算出)

■高規格道路整備によるICアクセス30分カバー率(居住面積比)

➢ 10年前に比較してカバー率が向上。

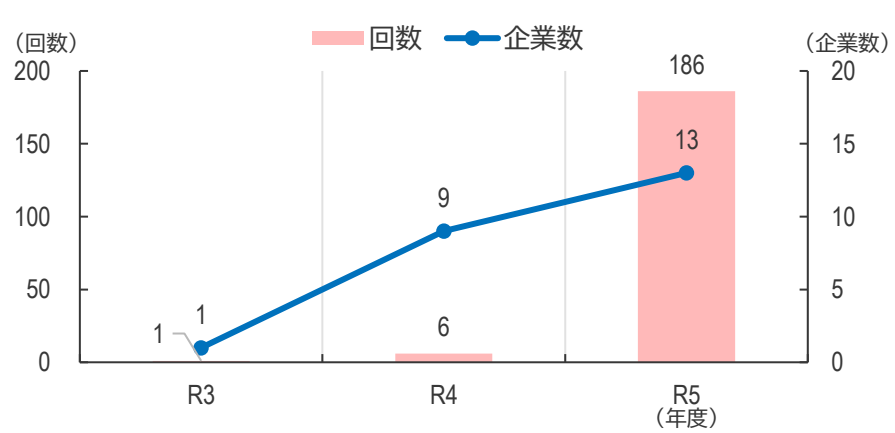


出典：北海道開発局調べ

※居住地域(非居住地域を除く)の1km²メッシュ数から算出

■国道関連施設を活用した物流の共同・中継輸送の利用件数(企業数)

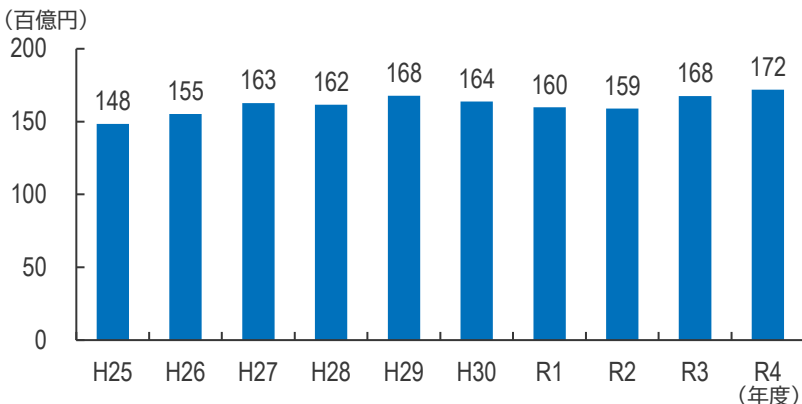
➢ 回数・企業数ともに近年大幅に増加。



出典：北海道開発局調べ

■北海道における総生産額(一次産業)

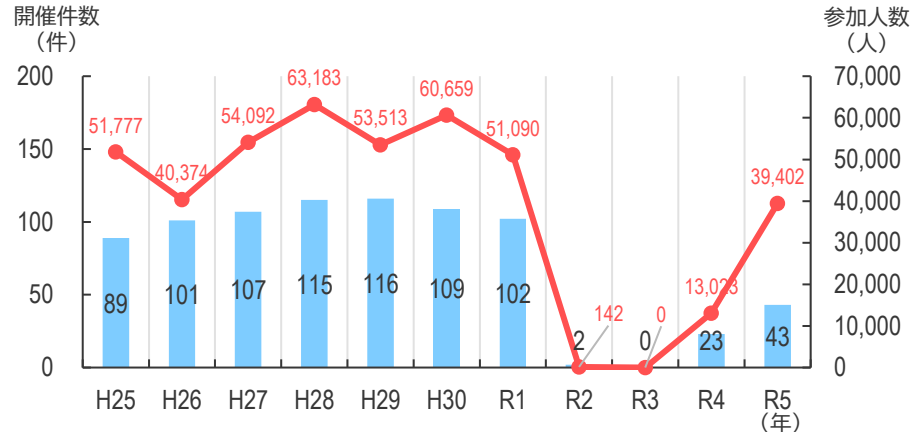
➢ 近年、1兆6000億円程度で推移。



出典：北海道「R3年度 道民経済計算年報」から北海道局作成

■札幌市における国際会議開催件数

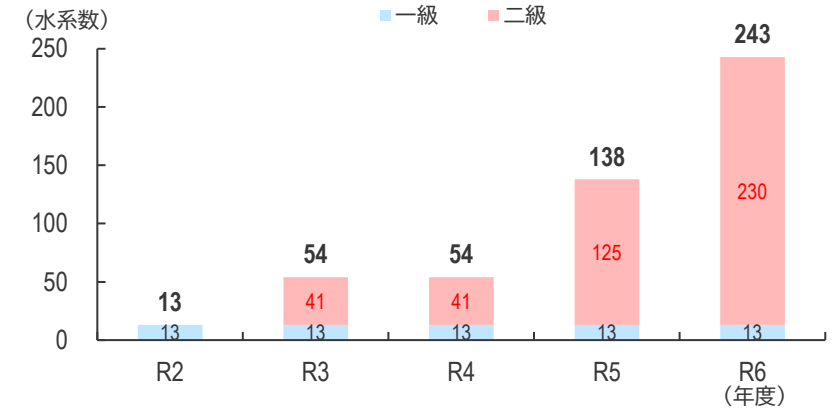
➢ コロナ禍で激減した後、回復傾向。



出典：日本政府観光局「国際会議統計」から北海道局作成

■一級水系及び二級水系において、連携して流域治水プロジェクトを策定している水系数

➢ R2年度に一級水系で策定後、二級水系での策定が大幅に増加。

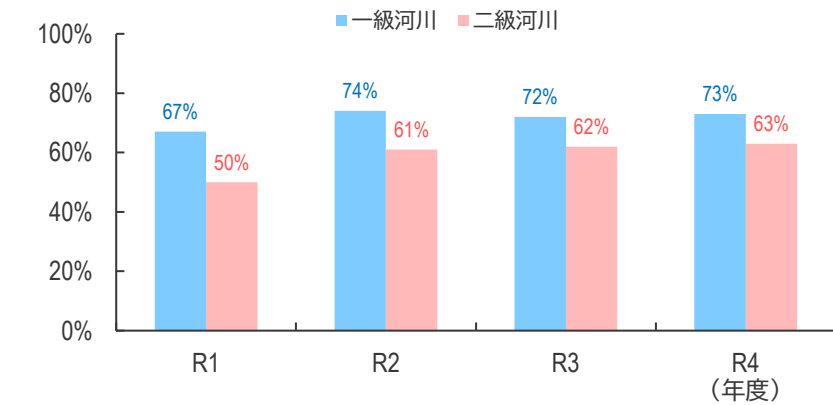


出典：北海道「流域治水プロジェクト」から
北海道局作成

※R6年10月8日までの累計策定数

■一級、二級河川における戦後最大洪水等に対応した河川の整備率

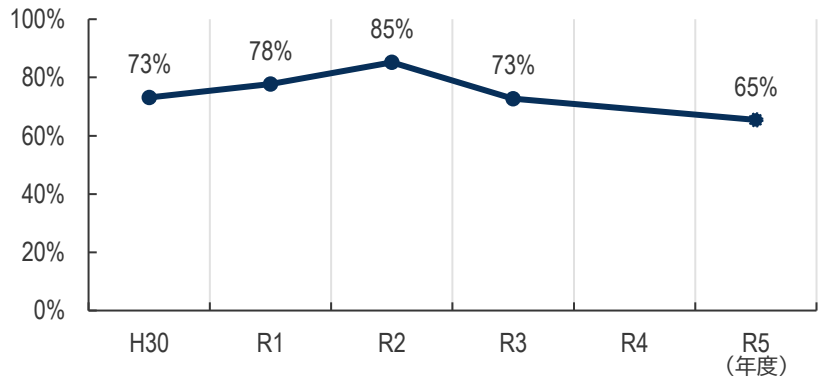
➢ 一級河川、二級河川ともに上昇傾向。



出典：北海道「北海道ブロックにおける社会資本整備重点計画」から北海道局作成

■最大クラスの津波に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識の向上につながる訓練を実施した市町村の割合

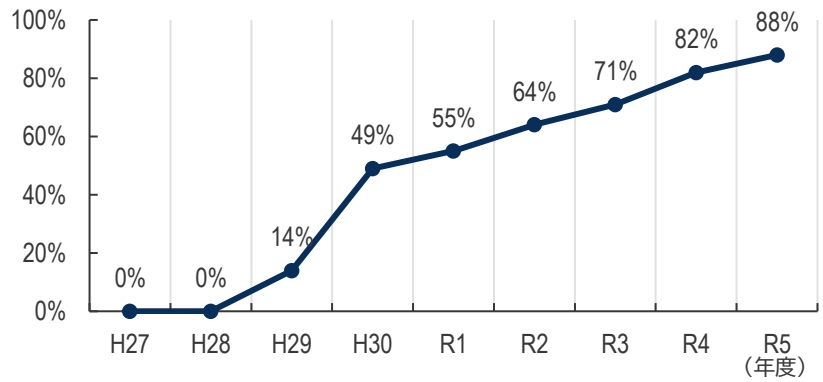
➢ 概ね70%前後で推移。



出典：国土交通省北海道局調べ

■最大クラスの洪水・内水に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識の向上につながる訓練を実施した市町村の割合

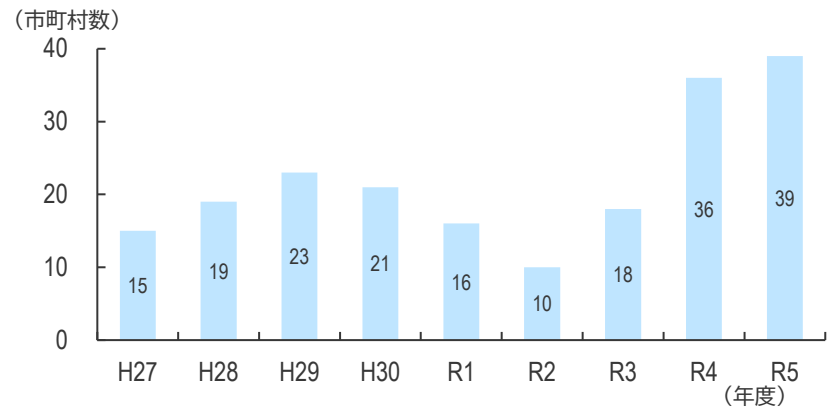
➢ 毎年増加傾向。



出典：国土交通省北海道局調べ

■冬期災害に備えた防災訓練の実施市町村数

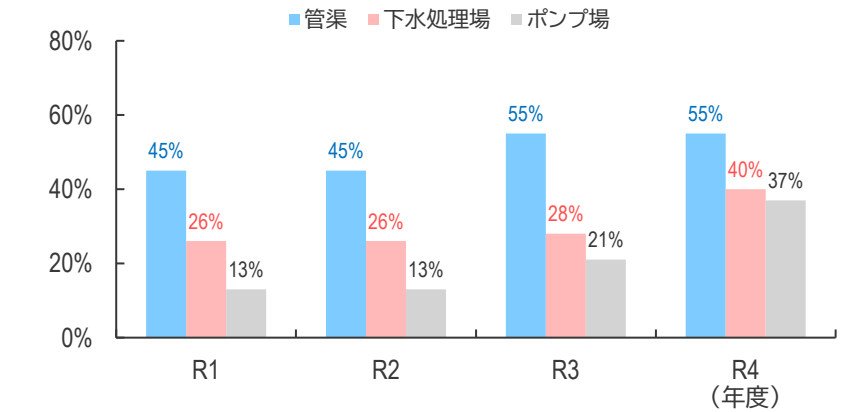
➢ 近年、実施市町村数が増加。



出典：国土交通省北海道局調べ

■災害時における主要な管渠、下水処理場及びポンプ場の機能確保率

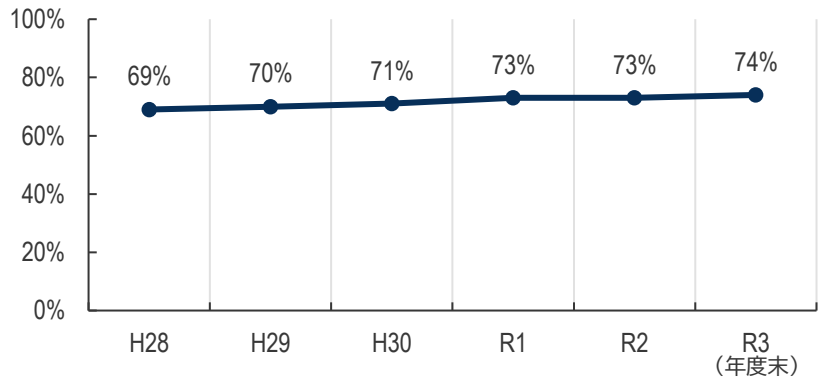
➢ いずれも上昇傾向。



出典：北海道「北海道ブロックにおける社会資本整備重点計画」から北海道局作成

■緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強進捗率

➢ 概ね70%前後で上昇傾向。

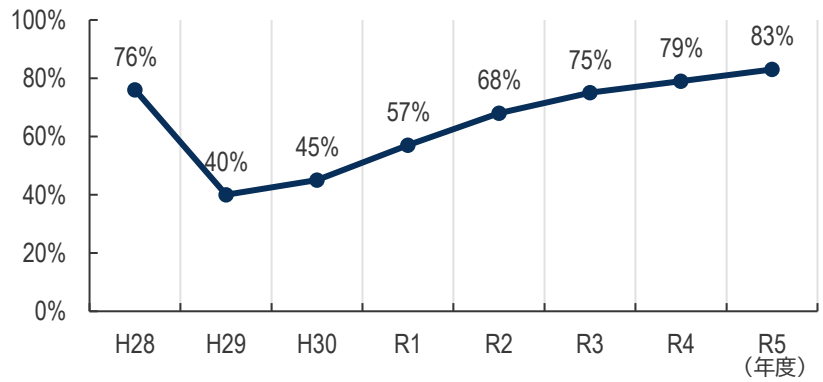


出典：国土交通省北海道局調べ

※緊急輸送道路上の15m以上の橋梁。

■直轄土木工事におけるICT活用工事の実施率

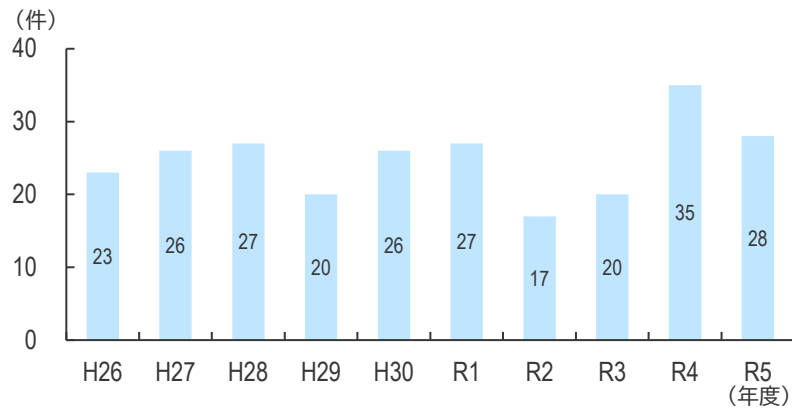
➢ 毎年増加傾向。



出典：北海道開発局「北海道開発局インフラDX・i-constructionアクションプラン」から北海道局作成

■リスク分散による企業立地件数

➤ コロナ禍以降若干増加傾向。



出典：北海道「R6年度 北海道企業誘致推進会議総会議案書」から北海道局作成